

# 2020年度(令和2年度)事業報告

---

## 運営に関する事項

### (1) 理事会・評議員会の開催

- 第1回理事会 6月 平成31(令和元)年度事業報告及び決算報告についてほか(書面開催)
- 第1回評議員会 6月 平成31(令和元)年度事業報告及び決算報告についてほか(書面開催)
- 第2回評議員会 7/30 理事の選任について, 監事の選任についてほか(京都経済センター)
- 第2回理事会 7/30 代表理事・業務執行理事の選定についてほか(京都経済センター)
- 第3回理事会 12/14 令和2年度上半期事業報告, 予算の補正ほか(中央センター)
- 第4回理事会 3/8 令和3年度事業計画及び予算についてほか(中央センター)
- 第3回評議員会 3/22 <新型コロナウイルス感染防止のため中止>

### (2) 人事交流

- (公財)京都市国際交流協会との9年目の人事交流になるが, 諸事情により休止とした。
- NPO法人TEDIC(宮城県石巻市)への職員1名の出向を3か月延長した(令和2年6月末まで)。

### (3) KES認証の継続

2008(平成20)年5月に受けたKES(ステップ1)の認証を継続(確認審査合格)し, 環境負荷の軽減を意識した法人・施設運営に努めた。

### (4) 新型コロナウイルス感染症対策の取り組み

- 協会としての取り組み姿勢を含んだ新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを策定し, 一部協会ホームページにて公開した。
- 感染対策に基づいた施設運営・事業実施のあり方を検討, 実行した。
- 緊急事態宣言下において在宅勤務の実施などに取り組んだ。

## I. 協会(本体)事業

京都市からの補助金及び協会自主財源を原資として以下のように実施した。

### 1. ネットワーク形成事業

若者の成長を支援する様々な団体や機関の活動が、有機的につながることを目的として実施した。

#### (1) 若者に関わる担い手育成

##### ① ユースワーカー養成(基礎)講習会

○例年2日間開催だが、1日のみ開催とし、2日目については次年度とした。

##### ② 若者に関わるスタッフの機関合同研修

○感染拡大防止のため中止とした。

#### (2) 若者に関わる機関・団体・人のネットワーク形成と連携を拡げる事業

##### ① 外部機関・団体と構成する実行組織への参画

協会の持っている“資源”をもって、オンライン等の手段も活用し、外部機関・団体との連携・協力を行った。

○行政機関、他団体に委員等を派遣した(市関連/市教委関連/他公益団体関連のうち主なもの)

- \*京都市はぐくみ推進審議会(委員(会長))
- \*京都市子どもを共に育む市民憲章推進委員会(委員)
- \*京都市児童生徒登校支援連携会議(委員)
- \*京都市男女共同参画推進協会(外部評価委員)
- \*京都市多文化施策審議会(委員)
- \*京都市HIV感染症対策有識者会議(委員)
- \*京都市国際交流協会(評議員)
- \*京都市社会福祉協議会(評議員)
- \*京都市児童館学童連盟(理事)
- \*チャイルドライン京都(共催・理事)
- \*京都YMCA(評議員)
- \*京都キャンプ協会(理事)
- \*京都市市民活動総合センター(運営委員)
- \*内閣府 未来をつくる若者オブ・ザ・イヤー(選考委員)
- \*京都すばる高校 地域との協働による高等学校教育改革推進事業(コンソーシアム委員)

##### ② 青少年育成・支援団体との事業共催・後援・協力

○各育成団体・外部機関・関係団体からの希望に応じて共催・後援・協力をした。

\*新型コロナウイルス感染症に伴い、事業実施を控える団体が多く、事業の共催・後援・協力は激減した。

\*実施の際には、ユースサービス/センターの広報等への協力をいただいた。

#### <共催事業>

事業名	主催
子ども電話受け手ボランティアインターン研修	チャイルドライン京都

#### <後援事業>

事業名	主催
研修会「誰もが認め尊重しあえる地域づくりに向けて」	京都市伏見区社会福祉協議会

#### <協力事業>

事業名	主催
令和2年度レクエーション・インストラクター養成講座	京都府レクレーション協会
「生きている本と対話をする図書館」ヒューマンライブラリー(オンライン)	学生団体SMILE
「ヒューマンライブラリーinみんなの学校ごっこ」	学生団体SMILE

### 2. 情報発信事業

若者や若者支援にかかわる団体・市民を対象として、その取り組みやかかわる人・団体について情報の受発信に取り組んだ。

#### (1) ボランティア情報の発信

○ボランティア情報の発信

\*ユースアクションプラン終了に伴い、WEBの改修を行った。

\*大学等、ボランティアガイダンス(動画配信)への参加・広報活動を行った。

## (2)若者に関わる情報の受発信事業

○広報誌「ユースサービス」の発行。

想定する読者は18歳以上の人。各事業所と連携した企画・取材を取り入れて記事内容の充実を図った。第36号～第37号を発行(4,000部)し、関係団体や個人、学校、大学他公共施設・機関に配布した。

\*第36号/4月発行 特集「若者×〇〇」、\*第37号/12月発行 特集「コロナ禍の若者のリアル」

## 3. 市民参加促進事業

「市民社会」の主体となる“市民”としての経験・学習の機会提供を目指す事業として、シティズンシップ事業の開発、仕組みづくりに取り組んだ。

### (1)シティズンシップ教育につながる事業の実施

○協会独自のシティズンシップ教育事業の開発・実施

\*京都市市民参加推進計画に向けて対話型パブリックコメント(ワークショップ)を実施した。

### (2)ローカルユースカウンスル設置運営

○若者からの視点で継続的な政策提案や市政参加ができる仕組みづくりとして体制づくりと3つのプロジェクト、広報としてチラシづくりやラジオ番組が稼働した。

\*京都チーム:中京区を盤面としたすごろくづくりに取り組んだ。

\*教育チーム:高校生を対象に、大学生や社会人がキャリア選択や学生生活のリアルを紹介しながらの座談会を実施した。

\*居場所チーム:青少年活動センターの自習利用者や個人利用者などが気軽に参加し他者とかかわれる場づくりを実施した。

\*広報:現メンバーを紹介するチラシ作成と、京都三条ラジオカフェにおける #ユースな時間 と称した番組を通じた発信に取り組んだ。

○わかものまちなみサミット2020への協力・・・延期となった。

## 4. 新たな社会的ニーズに対応した事業の展開

新たな事業展開の機会をつかみ、社会的要請を先取りするための調査・研究活動、仕掛けづくりに取り組んだ。

### (1)学校連携事業

○伏見工業高校(定時制)内での学校内居場所事業は、4～6月は活動休止となったが、感染対策などを協議し、7月以降は対策を講じつつ、継続して実施した。月1回程度イベントを実施しつつ、来室誘導や関係性構築を図り、その後のかかわりに繋げようとした。

○京都奏和高校開校に向けた学校側との協議を重ねた。次年度、入学生向けのオープニングイベント実施と、4部制が重なる奏和タイムにて、月1～2回の交流・体験イベント企画「Quintetto」を実施することとなった。

○京都すばる高校にて「社会に貢献するワークショップ」を実施し、NPO や社会貢献、ボランティア等に対して理解を深めてもらう機会を作った。

### (2)調査研究や新たなニーズに対応する取組の具体化

○声の集約と発信・・・各受託事業も含め横断的に「かかわる若者」「若者にかかわる関係者」から把握できた若者の声を取りまとめた。それらを各事業に反映させていくとともに、報告書発行・WEB・外部発表機会等を通して、若者の声を発信していくことに努めた。

○コロナ禍ニーズ・・・上記、若者の声から、生活・食事・お金・居住・学校・仕事・アルバイト・就職・家族・人間関係・インターネット・外出機会・余暇・活動・手続き・・・さまざまな切り口での課題が確認され、各受託事業にて取り組めるもの、かつ協会として取り組むべきものから、取り組んだ。

○所属長会タスク・・・今後に向けた取組みとして、①「今後の若者ニーズの把握」、②「新しいユースワーク事業を行う準備」、③「持続可能な組織運営」のタスクチームを設定し、次年度に向けて取組みを始めた。

### <行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	備考/実施場所等
ユースワーカー養成講習会	3/14	1	8	1日目のみ開催
対話型パブコメ	1/16	1	17	オンライン開催
社会に貢献するワークショップ	10/13	1	13	京都すばる高校
伏見工業高校 学校内居場所事業	通年	22	(375)	伏見工業高校

## 5. ユースサービスの普及、事業開発にかかる取り組み

### (1) ユースワーカー養成・資格認定事業

#### ① 基礎講習会後の資格取得コースを運営

- 基礎講習修了者を対象として資格取得コースを設置運営した  
\*2020年度は3名修了、ガイダンス1名、基礎講習が開催できず新規履修者はなし。

#### ② ユースワーカー協議会の事務局運営と参画、ユースワークの基盤強化

- 他都市のユースワーク実践団体(5団体)とともにユースワーカーの職能団体を運営した。  
<幹事団体>(公財)さっぽろ青少年女性活動協会/(公財)よこはまユース/NPO法人こうべユースネット  
名古屋市青少年交流プラザユースクエア共同事業体/(公財)京都市ユースサービス協会
- 1周年記念オンラインフォーラム「今、ユースワークの必要性とは何か」
- オンライン実践交流サロンの実施(7/28 日本のユースワークのこれからを考える, 9/25 ボランティアを超えた、参画としてのユース×コミュニティ, 11/19 日本のユースワークを知ろう ~あんなところで、こんな取り組み~, 12/22 聴いてみよう! フランスのユースワーク実践, 1/26 成人式について考える)
- 尼崎(2/14)でユースワーカー養成講習会3セッション分を開催した。
- 協力:令和2年度尼崎市実践者交流会「尼崎市のユースワークについて考える」

### (2) インターン受入れ/ボランティア育成・研修事業

#### ① 実習生/インターンシップ受入れ・指導事業

- 京都女子大学4名, 立命館大学ユースワーカー養成実習4名, 協会独自有償インターン1名  
その他, 府立大・大学コンソーシアム・京都橘大学・立命館大学については派遣中止となった。

#### ② ボランティア育成・研修会等の実施

- 協会事業全体にかかる説明会を6月・7月に実施, 学習支援事業における全体研修を年3回実施した。

### (3) 調査・研究事業

#### ① 立命館大学との共同研究(ユースワーカー養成研究/若者学研究)

- 昨年度からの継続で序盤は近接領域とユースワークの議論を進め, 中盤以降はこれまでの蓄積をもとに, ユースワークの定義化を目指して, 定例研究会・公開研究会を開催した(9回実施/すべてオンライン)。
- 大学院においてユースワーカー養成プログラムを実施。6名受講, うち4名の実習受け入れを行った。
- 若者学研究会を開催し, 若者自身による探求の場づくりを行った(5回実施, うち2回はオンライン)。
- 産業社会学部フロンティア・デザイン・センターとの連携により, 数年先のユースサービスを含む授業群の展開を模索し協議を進めるとともに, それを見越した勉強会を実施した。

#### ② 外部機関・団体・研究者等との共同研究

- 「若者政策とユースワーク研究会」(法政大学平塚教授を代表とする科研)に参画。オンラインでの研究会を実施。イギリスの関係者との意見交換, 書籍の作成に向けた検討等を行った。
- 「子ども・若者支援専門職養成研究所」(奈良教育大学生田教授を代表とする)に参画, 養成にかかる各領域の内容整理とともに, 若者領域のハンドブック作成に向けた検討を行った。

#### ③ 企画委員会と協働して各分野における事業の質的な深化・展開

- 実績なし

#### ④ ヤングケアラー(子ども・若者ケアラー)問題について外部関係者とのプロジェクトの事務局を担う。

- ヤングケアラー(協会では子ども・若者ケアラーの言葉を使う)事業プロジェクト  
\*10代・20代で家族等のケアの主要な担い手となっているケアラー(=子ども・若者ケアラー)を巡る問題について, 外部関係者とのプロジェクトの事務局を担い, 事例検討会, 当事者グループの運営サポートを行った。
- 当事者のつどい「いろはのなかまたち」定例開催(月1回)
- 情報発信として, 当事者の語りを届けるための動画2編の作成・発信を行った。
- <プロジェクト> 代表 斎藤真緒氏(立命館大学教授)・濱島淑恵氏(大阪歯科大学准教授)

### (4) 戦略的な広報の取り組み(広報室の運営, 講師派遣, 賛助会員ほか)

#### ① 広報室を核として, 協会及びユースサービスの「ファンを増やす」取り組みを進める。

- 若者向け広報:オリジナルキャラクターの作成とTwitterによる広報。高校生向けチラシの作成・配布。
- 一般・支援者向け広報:プレスリリースの発行。
- 職員向け:広報担当者会議において研修の実施。

## ②広報の全体調整を行う。

○広報データの更新・管理，協会広報物の全体調整，広報関連の照会・回答等，全体の調整を行った。

## ③講師派遣事業

○外部機関・施設等からの依頼に応じて，企画提供や講師派遣を行った。

\*新型コロナウイルス感染症の影響から，例年よりも大幅に減少している。

内容・テーマ	派遣先・依頼元等	実施日
地域企業論	京都経済短期大学	2020.6.9
生涯教育実践研究Ⅱ「若者の学びを支える取組み～京都市のユースワークの現場から～」	大阪教育大学	2020.6.19
社会教育論	京都教育大学	2020.7.6
社会教育演習	佛教大学	2020.8.24
中部地方の青少年支援に係る職員対象「居場所事業について」	内閣府	2020.9.1
「ユースサービスについて」	乙訓少年支援の会「ひまわり」	2020.9.5
市民協働トークセッション「子ども・若者が市政に関心をもつには？教育はどう関わられるのか？」	京都市	2020.10.2
はぐくみネットワーク研修会「若者の今と青少年活動センターの役割」	京都はぐくみネットワーク伏見・中支部	2020.10.12
社会教育演習	龍谷大学	2020.10.30
社会福祉実習Ⅳ「グループ活動を体験する」	同志社大学	2020.11.13
「“男らしさ”に悩む思春期の男の子に大人はどう関わられる？」	ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン 京都市男女共同参画協会	2020.11.14
市政施行70周年記念事業「若者のためのシンポジウム～withコロナ社会の若者の居場所を考える～」	富田林教育委員会	2020.11.15
教育協働概論Ⅱ（オンデマンド配信）「ユースサービスと京都市青少年活動センターの取り組み」	京都教育大学	2021.1.8
「ユースワーク マネージャー研修」	こうべユースネット	2021.1.24
文部科学省 地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究事業 近畿ブロック「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」 実践発表「知的な障がいのある若者の表現活動」	文部科学省 (実施主体:兵庫県教育委員会)	2021.1.29
令和2年度 尼崎市実践者交流会「尼崎市のユースワークについて考える」	尼崎市立ユース交流センター	2021.2.12
「ユースワーカー養成講習会@尼崎」	尼崎市ユース交流センター	2021.2.14
「誰もが認め尊重しあえる地域づくりに向けて」 ファシリテーター	伏見区社会福祉協議会	2021.2.28
勉強会「子ども・若者ケアラー」について学ぶ	こうべユースネット	2021.3.2
第111回 国際婦人デー記念のつどい オンライン 実践報告「青少年の置かれた環境と問題 必要な支援とは」	京都3・8プロジェクト	2021.3.7
教員対象「指導力の習得・向上のための研修」	京都デザイン専門学校	2021.3.11
「京都若者サポートステーションの就労支援」	京都外国語大学 学生相談室	2021.3.25

## ④賛助会員制度の運用

○主だった動きはなかった。

## ⑤ユースサービスを伝えるツール作成

○30周年の内容を含めたブローチャーの作成を検討したが，作成には至っていない。

## 6. ディーセントな組織づくり 事業開発の取り組み

---

### (1) ディーセントな組織づくり

#### ① アクションプラン

現場によってマネジメント方法が違い、それが戸惑いとなり働きにくさに繋がっていると分析し、いかに管理職のマネジメント能力を高めていくか、マネジメント研修の必要性も含めて検討した。

#### ② メンター制度の導入

新規採用職員3名に対し、ユースワーカーとしての業務を行う上で抱える葛藤や直面する課題、迷い等を相談できる体制を整えた。また、新任チーフ3名についてもメンターを、新任所属長2名については相談役をそれぞれ設定した。

#### ③ コンサルテーション・スーパーバイズの運用

今年度も大阪成蹊大学の山本智也教授に依頼し実施した。各事業所を対象に、リモートで20回実施。リモートという事もあり、新しい職員にはやりにくさを感じるのではと危惧があったが、実施後のアンケートではやりやすかったという声が大多数であった。

### (2) 職員研修の組織的・計画的運営(研修室による運営)

年間研修計画の設定と、それに基づいた研修を実施した。

○新規採用職員研修の実施／対象3名

○若手(2～4年目)職員研修の実施(単位制で設定し、内外の講師に依頼)／対象18名

○外部研修の希望を集約し研修の機会を提供した(学会、キャリアコンサルタント研修等)。

○外部研修で希望の多かったボランティアコーディネーションについての研修を別途実施した。

○普通救命講習(AED研修)の実施は、実施時期が緊急事態宣言と重なり中止となった。

○実践をふりかえること、ワーカーの語りに耳を傾けることを前提とした事例研究会を9～3月に実施した。

○職員全員が参加する全体研修について、私たちの大切にしていることを確認する作業を事業所内で取り組み、それを全体で集約する取り組みを行った。

### (3) 事業評価の実施

○事業計画から評価までの流れを整理、評価の意味を明確化するとともに、次年度以降の事業評価の方式を改定するべく準備を進めた。

○「外部評価者」の参画を得て評価会を行い、事業所間・ワーカー間の相互評価とともに外部の視点も含めた実践の価値づけの機会を設定した。

### (4) その他のプロジェクト

#### ① アドボカシー活動

○コロナ禍における若者の声を集約する取り組みを実施した。

○それら若者の声をシンポジウム・外部発表機会・WEB等で社会への発信に取り組んだ。

○また、他の取り組みと連動させ、若者自身が声を挙げやすい場づくりに取り組んだ。

#### ② SDGs に沿った事業・組織運営の検討

○SDGsの各項目と協会事業の紐づけ等、意義づけの必要性について検討した。

○最終的には全事業について該当項目を確認し、協会としての取り組みを整理することを想定し準備した。

## 7. 環境負荷の少ない団体・施設運営

---

### (1) KES認証の維持

KES認証を活かした施設運営を行うとともに、若者や地域への啓発的活動を進めた。

○節電、節水、紙の節減等、職員への徹底と利用者への呼びかけ

○環境改善目標の実現のために以下のものに取り組んだ。

\*環境意識の充実と外部発信(毎月1回以上)／センター周辺の清掃(毎月1回)

\*環境啓発事業の実施

## Ⅱ. 青少年活動センター指定管理業務

### 1. センター協同事業

#### (1) 若者文化発信事業(センター協同事業)【再掲】

- ①「ユスカル！若者文化市」 ※詳細は東山センターに掲載

#### (2) 青少年交流促進・多世代交流事業

##### ①ユースシンポジウム「この半年を語ろうぜ！」

2020年9月27日(日) 市内4青少年活動センターにて実施 参加者数90名(ボランティア等含む)  
コロナ禍、あたりまえが通用しなくなった社会で、若者たちが何を感じ考えたのか、直接語り合える場をつくった。密対策のもと「自主活動」「身の回りのこと」「はたらく」「若者支援について」と、テーマと会場をわけて実施した。

#### (3) 利用促進・広報・グループ登録の全体調整

##### ①青少年活動センターの利用促進・広報

- グループ登録の運用と調整

\* 青少年グループ登録=76団体, 育成登録団体=96団体

- 稼働率の低い施設・部屋などを中心として、利用促進プランを検討・実施する。

\* 会議室.com への下京青少年活動センター掲載

##### ②団体の交流・情報交換の場づくり

- 若者に関わる団体や青少年自主活動グループの交流・情報交換会の実施

\* 従来の実施時期が緊急事態宣言中だったこと、大人数での交流機会として対面想定であったことから中止とした。

#### (4) センターのないエリアにおけるアウトリーチ

##### ①機関連携

今後の展開に向けて、センターのないエリアの区役所・支所をはじめとした機関・団体への事業紹介とともに、かかわっている若者の状況等のヒアリングを行った。

##### ②出張ユースワークの試行と整備

- 若者が地域へ出向き、活動の場や視野がひろがる取り組み

\* 各青少年活動センターでのボランティア活動や地域を活動フィールドとした事業において実施した。

- 資源の少ないエリアにおいて、居場所や活動の場づくり

\* ニュータウン(洛西・向島)エリアでの若者・地域のニーズに応えた拠点づくり事業を実施した。

\* 向島における7年間の歩みを報告書としてまとめ発行した。

- 市民パートナーの開拓

\* 若者・地域とつくる場づくり勉強会@オンライン開催

2021年1月17日(日) Posse(東京都府中市)の実践報告をもとに、向島・洛西・醍醐エリアにて若者の場づくり実践者・地域関係者・関心を寄せた方々が集まり、意見交換の場をもった。

- プログラム型事業の試行

\* 社会的養護自立支援事業の訪問講習会において、ユースワーカーが協同でプログラムにあたった。

#### (5) ボランティア育成・研修会等の実施

- ボランティア説明の実施とマッチング

\* 6月と7月に全青少年活動センターの事業を対象としたボランティア説明会を実施した。

その他随時ボランティア応募に関する個別対応を行った。

- 中学生学習支援ボランティア説明会・研修会【後掲】

#### <行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	備考/実施場所等
ユースシンポジウム	9/27	1	90	中央・東山・下京・南センター
ボランティア説明会	6/21・7/19	2	(33)	中央センター

\* ユスカル！については、東山センター事業の中で記載



## 2. 子ども・若者総合支援事業(指定支援機関受託業務と総合相談窓口業務)

子ども・若者支援地域協議会において、支援の主導的役割を担う指定支援機関として、関係機関と連携のもと社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者の社会的自立に向けた総合的な支援に取り組んだ。また、中央青少年活動センターの子ども・若者総合相談窓口と子ども・若者支援室の機能を以て、ひきこもり地域支援センターとして位置づけられていた。

しかし、京都市のひきこもり支援の再構築により、令和2年8月末で子ども・若者支援地域協議会及び指定支援機関は廃止となり、子ども・若者総合相談窓口の機能のみとなった。他に廃止になった事業・業務は、課題別検討部会、ひきこもり支援専門委員会、ピアサポーター養成・派遣事業、NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業(講演会・民間団体等による交流会含む)。

### (1) 個別ケース支援(支援対象者等に対する相談、助言、指導及び支援の進行管理) ※3月末時点の累計

総合相談窓口や関係機関からリファーされた支援地域協議会による支援を必要とする対象者に対して、支援コーディネーターが相談、助言、支援のコーディネート及び進行管理等を実施。対象者の状況に応じて、家庭訪問や社会資源への同行等、アウトリーチの手法も用いて支援を行った。

新型コロナウイルス感染拡大予防のため休館した際は、相談者に対して電話にて近況を伺った。希望者には定期的に電話にて個別相談を行い、コロナ禍における不安の軽減や、相談・活動に対する意欲低下の防止を図るなど、心理的サポートに努めた。

指定支援機関業務の廃止に伴い、一部のケースを新たなひきこもり地域支援センターに引き継いだ。センター対象外のケースについては、引き続き支援を実施し、3月末までに関係機関に繋ぐ等を行った。

○支援ケースは81ケース(前年度からの継続:76ケース, 新規:5ケース)。昨年度から新規は横ばい, 総数が微減。終結ケースは23ケース。成果率終結率は82.6%だった。ひきこもり地域支援センターに移管したケースは52ケース。相談者が移管を望まず終結になったケースは6ケース。

○支援を始めて6ヶ月経過した9ケース中, 5ケースが状態の変化が見られる。状態変化の割合は55.6%

○本人支援のためのアウトリーチは, 31ケース61回(うち家庭訪問は3ケース9回)実施。6月で新規ケースの受け入れを中止したことや4~5月に休館したことが減少の要因。

### (2) 支援地域協議会及び関係機関との連携 ※3月末時点の累計

関係機関と適宜個別ケース検討会議や情報共有等を行うなど、関係機関と密に連携しながら相談者の支援を行った。

○個別ケース検討会議を71ケース, 延べ385回実施(前年度は53ケース, 延べ454回)。

○代表者・実務者会議については, 実施せず。5月の課題別検討部会は新型コロナの影響により中止。

### (3) NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業の実施 及び 関係機関・団体との連携

○子ども・若者支援促進事業及び当事業として毎年実施していた, 講演会と民間団体交流会は市の方針により実施しなかった。

○ただし, 今までの関係団体との連携を継続するために, 12月に「若者支援団体との情報交換会」を実施。5団体が参加。

### (4) 協会内部資源の活用・連携

子ども・若者総合相談リンク機関として位置づけられていた「若者サポートステーション」, 「青少年活動センター」と, 総合相談窓口・支援室とが密接に連携し, 子ども・若者の総合的な支援に努めた。

○スーパーバイズ(総合相談窓口:4回, 支援室:9回)を実施。窓口のSVは8月で終了。4月, 1月は新型コロナの影響で中止。2月は個人情報に留意し, オンラインで実施。

○若者サポートステーション, 青少年活動センターからの紹介による子ども・若者, 家族, 機関の相談:23件

○青少年活動センター, 若者サポートステーションのユースワーカーからの相談:60件

○相談窓口における, 若者サポートステーション・青少年活動センターへの紹介:20件

○支援ケースにおける, 青少年活動センター・若者サポートステーションとの連携数:15ケース, 延べ73回

#### (5)ピアサポーター養成・派遣事業

昨年度に引き続き、支援コーディネーターとともに、対象となる子ども・若者の社会的自立に向けた支援に協力する「ピアサポーター」の養成派遣を実施した。新型コロナの感染対策で休館となり、活動は6月～8月の3か月となった。

- ピアサポーターの派遣は2ケース、延べ4回(休館を除く6月～8月)
- ミニグループ活動(モノタメ:ものは試しの略)を月1回実施。今年度はピアサポーターの考案による、予めテーマを設定したモノタメを実施し、相談者のコミュニケーションが促進された。
- ピアサポーターミーティングを月1回継続。活動のふり返りや検討を行った。
- ひきこもり支援専門委員会は、新型コロナの影響により書面での開催を1回実施。

#### (6)子ども・若者総合支援機能の発信

視察対応、外部での講演等の機会を通じて、子ども・若者総合支援とユースサービス協会全体の機能について広く発信に努めた。

- 子ども・若者総合支援に関する視察・調査対応:6件(前年度:8件)
- 外部発表・出展等:43件(前年度:24件)

#### (7)京都市ユースアクションイベントガイド

認証事業終了に伴い、ホームページの改修を行った。紙面発行については、各種活動が自粛要請に伴い実施できなくなり、また見通しが持てないままの1年となり発行を見送った。

#### (8)総合相談窓口事業(青少年活動センター指定管理業務)

「子ども・若者育成支援推進法」に規定されるワンストップ窓口として、「子ども・若者総合相談窓口」を中央青少年活動センター内に設置し、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者やその家族からの相談に対応した。また、平成25年度から令和2年8月まで、「ひきこもり地域支援センター」の相談窓口としても対応した。

- 新規相談は、409件。前年度(701件)より大幅に減少。
- 新規相談ケースの相談者別の内訳は、本人が116件(28.3%)、父又は母が183件(44.7%)、両親以外の家族が29件(7.1%)、その他が81件(19.8%)。相談内容別では「ひきこもり」が98件(23.9%)と最も多く、次いで「家庭内の問題」が92件(22.4%)、「就労」58件(14.1%)となっており、その他、性や障害、コロナに関する事など、多様な相談を受けている。
- 年代別では、10代が102件(24.9%)、20代が191件(46.7%)、30代が84件(20.5%)、40代が7件(1.7%)、不明が25件(6.1%)であった。

### 3. 中学生学習支援受託事業（京都市子ども若者はぐくみ局子ども家庭支援課）

経済的な理由等で家庭での学習環境が整いにくい中学生等を対象とした学習支援事業を実施。大学生を中心としたボランティアによる1対1の学習サポートにあたった。場づくりや運営が安定するよう、青少年活動センター以外の拠点についてはコーディネーターを配置した。2020年度はコロナ禍でのスタートとなり、学習会休止、再開後も大学等各所属からのボランティア活動への制限、会場についても利用不可または定員減の措置が取られることもあった。Readyfor緊急助成を受けながらオンラインでの学習支援を実施、そのためのマニュアルを作成した。また通年の有償インターンを導入し、担い手育成と同時に運営体制強化を図った。

#### (1) 実施回数＝延べ748回

	登録実数	延べ参加者数	夏休み学習会(延べ)
学習者	301人	2,758人	44人
ボランティア	267人	3,319人	74人

#### <各地域での実施状況>

Co.=コーディネーター Vo.=ボランティア

実施場所	参加者 (登録者)	ボランティア 及びスタッフ	実施曜日	実施の枠組み
北青少年活動センター	12	20	毎週木曜日	BBS会の協力
伏見青少年活動センター	24 6	13 3	毎週木曜日 毎週月曜日	単独運営 1月から週2実施
山科青少年活動センター	29	15	毎週金曜日	単独運営
南青少年活動センター	18 4	10 6	毎週木曜日 毎週火曜日	単独運営 11月から週2実施
洛西(洛西センタービル)	19	11	毎週金曜日	下京センターがボランティアをコーディネート。Co:地域団体に依頼
中央青少年活動センター	18	22	毎週金曜日	学習支援団体Apolonの協力
小栗栖(こどものひろば事務所)	4	6	毎週火曜日	山科醍醐こどものひろばの協力
右京(山ノ内社会福祉会館)	18	27	毎週木曜日 毎週水曜日	花園大学社会福祉学部の協力 Co:花園大学教員
左京(左京区役所)	19	20	毎週金曜日	京都ノートルダム女子大学他の協力 Co:同志社大学 院生
深草(龍谷大学町家キャンパス)	21	30	毎週木曜日	龍谷大学の協力 Co:龍谷大学 学生2名
西京(西京児童館)	9	5	毎週金曜日	京都市社会福祉協議会の協力 (会場借用)
東山青少年活動センター	21	17	毎週金曜日	地域団体と協力
醍醐(カフェ「トハウス」)	3	10	毎週木曜日	山科醍醐こどものひろばの協力
下京青少年活動センター	14	9	毎週月曜日	単独運営
上京(上京区役所)	19	13	毎週月曜日	単独運営 Co:同志社大学卒業生
右京南部(京都光華女子大学)	8	7	毎週木曜日	京都光華女子大学の協力 Co:NPO法人代表
向島(城南保育園)	17	7	毎週土曜日	伏見区社会福祉協議会の協力 Co:京都大学 大学院生
醍醐支所	11	10	毎週月曜日	支所内プロジェクト 山科醍醐こどものひろばの協力
西京ほっと(まちづくり交流プラザ)	6	6	毎週土曜日	11月より週2回目として実施

\* 青少年活動センターで実施する学習会の運営詳細については、各青少年活動センターにおいて記載。

\* 中学生の受験が近づくと秋以降、ニーズに対応して、いくつかの学習会で他の曜日にも実施した。

## (2)「夏休み学習会」の実施

長期休暇中の学習機会と居場所として実施した。

○市内5拠点、計13日間実施。

## (3) ボランティア説明会

計9回定例でのボランティア説明会を実施した。また、説明会以外に個別でのボランティア説明も対応し、各拠点につないだ。年間通じて、100名以上ポータルサイト等からの問い合わせが断続的にあった。

## (4) ボランティア研修・交流会

各回の振り返りを重視し、それぞれの拠点で毎回振り返りを実施しているが、それ以外にも拠点毎に研修や交流会を企画・実施した。

拠点を越えた全体の研修と交流会については、コーディネーターと学習会ボランティアを対象に、今後の活動や自身のスキルアップとなるような研修と、拠点を越えた新たな仲間との出会い・交流ができる機会として年に3回実施した。

○第1回「中学生と関わる時に知っておきたい京都市の受験制度のこと」「オンライン学習支援の進捗共有」

○第2回「人と関わるボランティアとして知っておきたい「ジブン」のこと」

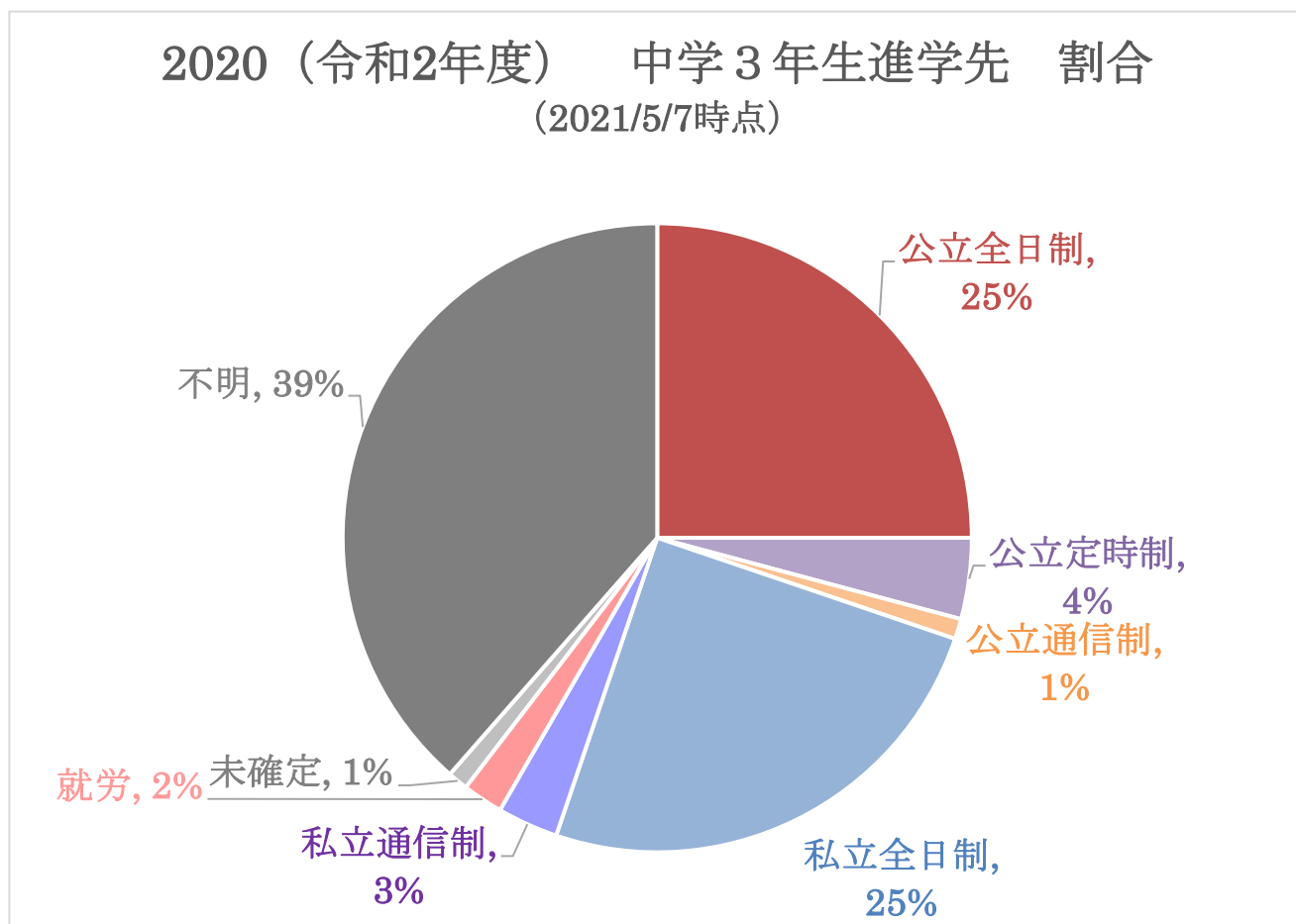
○第3回「活動中のみんなの“困った！”意見交換会」

## (5) コーディネーター担当者会

担当職員・コーディネーターの合同会議を年2回開催。それぞれの運営状況の共有のほか、運営の基礎やルール確認、成果や課題の把握、オンライン学習支援のデモンストレーションなどを行った。

## \* 中学3年生進学先について

中学3年生の登録96名のうち、不参加等で連絡がとれない37名と未確定1名を除き全員の進路が決定した。



#### 4. 社会的養護自立支援事業に係る生活相談等支援事業の取り組み

児童養護施設等，社会的養護のもとで暮らしてきた若者たちの退所後・措置解除後の生活を支えるため，ユースサービスの強みを生かした事業に取り組んだ。

##### (1) 研修の実施に関すること

○自立支援コーディネーター及び京都市ユースサービス協会職員対象

・第1回 7月20日(月) 36名

①講演『インケア・アフターケアにおける自分も相手も大切に作る関係づくり』

講師:徳永桂子氏(思春期保健相談士)

②前年度「社会的養護自立支援事業生活相談等事業」の報告・ふりかえり

③当年度の事業計画，研修に関する意見集約

・第2回 12月15日(火) 30名

『進路選択に向けてのかかわりと利用できる資源・制度について』

①進路選択:「進路選択時の関わり方について」京都若者サポートステーション

②就職:「働く準備について取り組み紹介」京都若者サポートステーション

③進学:「市立奏和高校の取り組み」,「高校での進学に向けた流れ」京都市教育委員会

④奨学金:「給付型・貸与型奨学金について(オンライン)」独立行政法人日本学生支援機構

・第3回 2月4日(木) 22名

『事例をもとに考える～制度活用とアフターケアの今後～』

①「京都市の社会的養護自立支援事業について」

講師:岡山達也氏(京都市子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部子ども家庭支援課)

②「居住・生活支援制度を活用した事例について」

講師:中尾 将也氏(児童養護施設つばさ園)

グループでの感想と質問確認(事例についてまたは他事業所について)

③「進路選択について「KAZAANAプロジェクト」の紹介」

講師:株式会社MIYACO

##### (2) 相談支援に関すること

○対象者からの相談:105件197回 ※退所者・措置解除後であることがわかった件数のみ計上した。

内容:人間関係,進路選択・学校生活,帰化,お金,居住,結婚,就労・職場適応,親子・家族関係,虐待,心身の健康,生き方,余暇の過ごし方,居場所など。

コロナ禍における特徴的な相談として,緊急給付金申請等のサポートや推薦,フードバンクを活用した食糧支援,衛生用品・衣料品等寄付による郵送の支援が数件あった。

○入所中・関係機関からの相談

内容:他都市からの転入,帰化,居場所,就労,生き方,職場適応,余暇の過ごし方,お金,障害,などの相談があった。

##### (3) 交流会の運営及び実施に関すること

○参加者同士がともに食事をしながら仲間と語り,安心して過ごせる場の運営を行った。

事業名 : いこいーな

日程 : 毎月第3土曜日17時～21時 合計10回 ※緊急事態宣言下の4・5月休止

場所 : 京都市南青少年活動センター

内容 : 新型コロナウイルスの感染拡大により,1度目の緊急事態宣言中は活動を休止し,解除も調理等は行わず,開催時間の縮小やオンライン参加を可能とする等の感染対策を行いながら開催した。活動休止中は,スタッフより定期的に参加メンバーへの電話連絡を行い,継続的な支援が行えるように努めた。

参加者数 : 延べ32名(内2名オンライン参加)

#### (4) 入所児童向け講習会に関すること

○講演会： 生い立ち関係なく、だれでも好きな“自分”になれる

日 時 3月16日(火) 15:30～18:00

場 所 京都市中央青少年活動センター(オンライン参加あり)

ゲ ス ト 田中れいかさん(レポーター)

参 加 27名(入所者, 退所者, 児童養護施設職員, アフターケア事業関係者等)

そ の 他 団体紹介と参加団体(京都若者サポートステーション, メヌエット, sacula, 京都わかくさカフェ)によるブースでの情報提供, 寄付品等のお渡し

#### ○訪問講習会

テーマ:「お金」「はたらく」「性」「他」より, 施設から希望をもらい, 施設訪問をして実施した。

対 象: 入所中の15歳以上

内 容: チェックイン(カードトーク), テーマに合わせたワークと対話

・11/26 積慶園【はたらく】参加11名, 職員4名 / 訪問職員4名

・2/20 迦陵園【お金】参加9名, 職員3名 / 訪問職員4名

・3/6 聖嬰会【お金, はたらく】参加13名, 職員3名 / 訪問職員3名

・3/11 平安養育院【お金】参加5名, 職員2名 / 訪問職員2名

・感染対策による未実施: 平安徳義会, 和敬学園, つばさ園・もものき学園

#### (5) 関係機関との連絡調整に関すること

○事業運営にあたり必要な関係機関との調整, 関係づくりを行った。

・児童養護施設長会(挨拶・報告)

・京都市児童相談所

・アフターケア「メヌエット」(情報共有)

・全国ネットワーク「えんじゅ」への団体参加(情報交換・研修参加)

・京都府ユースアシスト

・アフターケア相談所ゆずりは(相談・訪問)

・京都YWCA(個別支援)

・一般社団法人青少年自助自立支援機構(個別支援)

・東京つくろいファンド(個別支援)

・一般社団法人Colabo(個別支援)

#### ○協会を活かした機関連携

・学習支援事業: 施設入所者・退所者の継続参加, その他問い合わせあり。

・青少年活動センター事業への参加や施設利用, 選択肢や視野をひろげる機会として, センターの職員と話してみるという使い方もあった。

・ケースについて子ども・若者総合相談窓口への内部相談

・ケースについて京都若者サポートステーションへの内部相談

#### ○チャリティスマイル助成金事業(受託事業外)

・コロナ緊急助成に採択され, 「いこいな」や相談でかかわった若者への食糧・感染対策等衛生用品の支給, 同行支援等を行った。

## Ⅱ-1 中央青少年活動センター

### 全体の動向

若者と地域の間立つ「ハブ」としてのセンターを目指す3か年計画の3年目ではあったが、3年前とは状況が変わっていることから、コロナ禍において従来の取り組みを進めるよりは、接点のある若者及び関係者からの声をもとにした取り組みを進める方向にシフトした。若者の活動機会が損なわれないように、各事業は極力実施するとともに、協会本体事業・協同事業とも連動させ、若者の声を集める機会、発信の機会、活動の発表の機会づくり等、既存事業の枠を基に横断的に取り組んだ。

### 1. 若者の社会参加の促進

#### (1) 若者のニーズを社会化する事業「HUB」

- 「同調圧力と生きがい」をテーマとした調査を実施した。街頭でのインタビューを予定していたが、コロナ禍でセンターにおける掲示・アンケート配布と、2センターにおけるインタビュー調査とした。
- 調査結果をもとに中央青少年活動センターのオープンデーで発表した。
- 10月に昨年度延期したテーマ別「語る会」を、3月に調査結果をもとに意見交換する「語る会」を実施した。

### 2. 居場所づくりを支援する

#### (1) 街中コミュニティ

- 月2回金曜日の日中、コミュニケーションに苦手意識を持つ参加者が話す、遊びや活動を通して交流する継続的かつ少人数でのグループ体験の機会を持った。
- 子ども・若者支援室や京都若者サポートステーションと、必要に応じて運営や参加者の状況について共有・協議をはかった。

#### (2) 交流プログラム「CONTACT」

- 青少年同士、ワーカーと青少年が交流できるテーマを設定した企画参加型プログラムを年15回実施。
- 気軽に参加ができ、さまざまな青少年の思いや価値観が可視化される掲示参加型プログラムを年7回実施。
- 気軽にボランティア活動に触れ、グループ活動を通して他者と交流し、楽しさ・やりがい・役立ち感を得られる活動として清掃活動やロビー企画のボランティア『One☆Chan』等を通年で実施した。
- 夏休み自習応援企画として、グループ自習室の設定、すぐろく型のスタンプラリーを実施した。
- ウイングス京都との連携事業として、「パープルリボン お付き合い力診断」「ワンチャンTwitter(男性らしさをテーマにした発信)・掲示」「男性らしさおしゃべり会」を実施した。
- 地域若者サポーターが中心となって運営する交流カフェ「赤れんがCafe」の実施を通して、青少年が居心地の良さを感じたり、サポーター等と出会ったりできる場を提供した。コロナ禍で実施回数は減少した。

### 3. 自主活動を支援する・担い手育成に関わる事業

#### (1) 自主活動応援事業「CHEER」

- 青少年グループや個人のやってみようを形にする企画として、必要に応じて活動の具体化・施設利用・広報・運営等とともに考えるかかわりを持った。今年度は5件実施。  
\*「ヴァイスシュバルツ大会」「羊毛フェルト展」「チアダンス発表会」「演劇公演」「ボランティア活動」
- 活動発表の機会が失われている若者たちの声を受け、「プチなんでも発表会」を実施。2回企画したが、1回は感染拡大を受けて中止した。また、流れを汲みオープンデーでの活動発表の機会づくりに繋げた。

#### (2) インターンや社会教育実習等の受け入れ

- 京都女子大学より社会教育実習として2名、立命館大学大学院よりユースワーカー養成プログラムの実習として1名を受け入れた。実習生はロビープログラム・街中コミュニティ・学習支援事業等に携わった。

### 4. 地域交流・連携・参画に関わる事業

#### (1) オープンデー

- 緊急事態宣言中(2月)だったが、若者の活動の場が失われている現状もあり、企画内容のうちニーズが高かった「活動の発表機会」に焦点を当て、オープンにするのではなく申込制に変更することで「はんびらきデー発表の場をつくりたい!」として実施した。9団体・個人が出演。発表者・地域の繋がりから130名が来場した。
- ロビーのデジタルサイネージでも発表の様子を中継し、ロビー利用者が興味を持つ機会づくりにも取り組んだ。

#### (2) 中京区及び全市域の団体・機関との連携事業

- はぐくみネットワークの会議には参加したが、ふれあいトークなどの事業は中止となった。その他、日彰学区安心安全環境パトロールや中京区要保護児童対策協議会、ウイングス京都等との連携をはかった。

#### (3) 育成委員会の開催

- 2~3月に実施予定だったが、年度末かつ感染症対策も重なり、協議のうえ実施を見合わせた。

## 5. 相談・支援の取組

### (1) 相談事業

○ロビー利用者とのかかわりは一定数あったが、記録作成や所内での情報共有、SVについては十分に取組むことができず、ワーカー自身の力量をつけていくための省察機会が十分にはとれなかった。

### (2) 就労支援事業

○希望に応じて、職場体験として受け入れ、センターの日常業務を体験する機会設定をしていたが、今年度は希望なく、実施せず。

### (3) 中学生学習支援事業「かけはし」

○学生サークル Apolon による運営協力のもと、学習会を実施した。大学からの課外活動自粛要請などもあり、対面での実施ができず、オンラインでの取組みも交えて学習会を実施した。

## 6. 利用促進・発信・広報に関わる事業

### (1) 利用促進事業

○空き施設を利用して自習室を設置。休館期間の影響で減少したものの、ロビーでの自習利用も多く見られ、自習ニーズが高いことが見受けられた。近隣中高の利用が多いが、幅広いエリアの学生の利用があった。

### (2) トレーニングジム運営(トレーニングジムガイドンス)

○6月初めまで休止したが、センター開館に合わせ、感染症対策に取り組みながら利用再開。ボランティア・アドバイザーの協力を得て、安全なジムの運営に取り組んだ。

○4～6月はジムガイドンス実施を休止していたが、7月以降定員を抑える中で月2回実施した。

○感染症対策として、ジムの換気、器具の消毒、要請への対応等、手がかかる場面が多かった。

○前年度まで青少年が多かったが、今年度は一般利用が多くなり、青少年の利用が大幅に減少した。

### (3) 広報活動

○認知を広めるため、施設パンフや利用案内チラシ、センターだよりを作成し、近隣中高を中心に配布した。

○HPやSNSを通じた事業周知と報告の発信、紙媒体を用いた施設・事業の周知に取り組んだ。

○近隣の中学校・高校・専門学校に架電・訪問。少数だが、全校配布できる学校が増えた。

## 7. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

### (1) ユースアシスト(京都府との連携事業)

○京都府青少年課が実施している「少年の立ち直り支援事業」(ユースアシスト)に協力。定期的な学習支援や面談のための場所提供を行った。

### <行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	実施場所等
ニーズ発掘事業HUB‘ アンケート・掲示調査 インタビュー調査 語る会	通年 第1・3土曜日 10/17~31 10/17・11/7 10/11・3/21	20 — — 2	3(38) (493) 7 (15)	中央センター 各センター 中央・伏見センター 中央センター
街中コミュニティ	第2・4金曜日	19 14	参加者=(82) ボランティア=(18)	中央センター
交流プログラムCONTACT	通年	37	(1045)	中央センター
参加型ロビープログラム	通年	15	(154)	中央センター
掲示参加型プログラム	通年	7	(217)	中央センター
One☆Chan(1DAYボランティア)	通年	5	(15)	中央センター・周辺
夏休み自習企画	8/8~23 8/18	13 1	(173) 12	中央センター
赤レンガCafe	9~12月(第3土曜日)	4	(10)	中央センター
活動応援事業CHEER	通年	5	(219)	中央センター・周辺
オープンデー	2/28	1	130	ウイングス京都
学習支援事業「かけはし」	通年	47	(237), (157)	中央センター
トレーニングジムガイドンス	第2日曜・第4土曜日	18	参加者=(90) ボランティア=6(18)	中央センター



## Ⅱ-2. 北青少年活動センター

### 全体の動向

年間利用者数は35,434名となり、2019年度比で14,294名の減少、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた。しかし、近隣の自習室が長期休館や利用者制限をしたことで、自習室利用数が7,017名と昨年度の2,756名より大きく増加した。また、大学サークルの活動自粛指示が出たことで、昨年度までのグループ練習が減少したが、1名から数名での個人練習をしに来る大学生が増えるなど、例年とは違う使い方が見られた。

### 1. 自然体験・環境学習事業(センター固有テーマ事業)

#### (1) 若者農業体験隊 米 comeCLUB

○参加者の多くが非日常を体験することを醍醐味に参加していた。そのため、継続的参加者は少なかったが、多くの青少年に農業体験をしてもらうことができた。

### 2. 居場所づくり支援事業

#### (1) ごぶさた

○コミュニケーションが苦手等、何らかの課題を感じている青少年を対象に、料理やレクリエーション等のプログラムを実施した。参加者に個別で話を聴く時間をとったが、参加者は自身の課題にチャレンジするよりも、居心地の良い場を求めていることが分かった。次年度からは「同年代の若者が安心して過ごせる場」をコンセプトに、いつでも帰ってこられる場をつくっていく。

#### (2) 卓球フリータイム

○9のつく日に実施。毎回参加するリピーターもいれば、利用の合間や自習の息抜きなどでふらっと参加する若者など、多様な使い方があった。

### 3. 担い手育成に関わる事業

#### (1) 自主活動支援事業

○ロビーでの関わりから拾った若者の声を、ワーカーと若者とで一緒に実現していった。その他飛び入りでの自主活動の相談が3件あった。

#### (2) ボランティア体験・インターンシップなどの受け入れ

○立命館大学のユースワーク実習から1名と、大学などの関係機関を介さず、青少年から直接インターンシップ希望があり、15日間の短期インターンシップとして1名、計2名を受け入れた。

### 4. 地域交流・連携・参画に関わる事業

#### (1) 気軽に休日ボランティア

○地域の環境団体(日本環境保護国際交流会)と清掃活動を毎月1回実施、例年通り多くの参加があり、新型コロナウイルスの影響により、外に出る機会が少なくなったため、とりあえず外で何かしたい層の参加が目立った。しかしながら、地域のイベントが全て開催中止になり、月1回の清掃活動のみの実施となった。

#### (2) サンタクロース・プロジェクト

○クリスマスイブの夜に、青少年がサンタやトナカイに扮して、保護者から事前に預かったプレゼントを届けた。例年であれば家の中に入りパフォーマンスを行うが、新型コロナウイルス感染症対策として、家には入らず子ども一人ひとり専用のサンタクロースからの動画を作りプレゼントした。

#### (3) 北コミまつり(センター利用団体、地域団体との協力事業)

○新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は例年とは違う形での実施となった。多くの青少年が障がい理解につながる仕組みとしてパネル展示を用意し、他の事業と連携しながら、若者が障がいについて考える機会を作った。\*他事業との連携:気軽に休日ボランティア→サンタクロース清掃, 自習室→テスト勉強応援メシ, 自主活動応援事業→なんでも文化祭

#### (4) つながるワークショップ(北区役所との連携事業)

○北区役所主催のまちづくり事業(ワークショップ)の企画・運営を、関係する機関と協働して行った。

#### (5) 北区学生×地域応援団(北区社会福祉協議会、大学ボランティアセンターと連携)

○北区内の4大学(京産大、立命館大、佛教大、大谷大)と、北区社協、北区まちづくりアドバイザー、北青少年活動センターの組織間の関係性づくりを行うため、定期的に情報交換会を実施した。

#### (6) 関係機関との連携・協力(運営協力会や、北・上京区役所等行政機関、高校・大学等教育機関ほか)

○新型コロナウイルス感染症対策として、運営協力会を書面で開催した。また、その他の地域の会議も中止や書面開催となった。

## 5. 相談・支援の取組 ※就労支援, 学習支援事業含む

### (1) 相談事業

○継続的な支援とチームで関わることを意識して、ロビー日誌や関わり記録などを残す仕組みをつくり活用していった。

### (2) 北・上京中学生学習会(学習支援受託事業) ※再掲

○新型コロナウイルス感染症の影響で、ケースワーカーが家庭訪問できないこともあり、新規参加者が著しく少ない年になった。しかし、ボランティアは希望が多く、また継続的に参加ができていた。

### (3) 就労支援事業「チャレンジ・インターン」(京都若者サポートステーションとの連携事業)

○希望者がおらず実施なし。

## 6. 利用促進・発信・広報に関わる事業

### (1) 自習室

○青少年が集中して勉強するために、登録制で自習室を開放した。近隣の自習室で休館や利用制限が出たことにより登録数が増加した。また、ロビープログラムと連動して、自習室利用者をターゲットにするプログラム「テスト勉強応援メン」を実施した。

### (2) 広報充実事業

○事業のチラシ等を近隣中高の全校生徒に配布した。大学での広報は例年と違い、オンライン説明を希望されることがあった。

### (3) ロビープログラム

○掲示型のロビー企画から、かき氷カフェや仮装チャレンジなどイベント型のロビー企画までさまざまな形で若者と関わる機会をもつことができた。その他オンライン大喜利などTwitterを使ったプログラムにも挑戦した。

## 7. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

### (1) 非行少年等立ち直り支援事業(京都府青少年課と連携)

○京都府の「立ち直り支援チーム(ユースアシスト)」に協力し、家庭裁判所に送致され係属中の少年を参加対象にして、月1回の地域清掃活動を行った。

## 8. 環境負荷の少ない施設・事業運営と啓発に取り組む

### (1) 環境負荷の少ない施設・事業運営と啓発に取り組む

○KESの取り組みの一環として、雑紙の回収、節電・節水掲示による啓発も行った。ロビープログラムと連携して分別間違い探しなど、利用者が楽しみながら学べる機会を作った。

### <行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	実施場所等
米comeCLUB	6・7・9月	4	(22)	大原
地域で始めるボランティア				
清掃活動	通年(第1土曜日)・随時	10	(185)	紫明通り
ごぶさた	通年(月4回)	40	(244), Vo(46)	北センターほか
サンタクロースプロジェクト				
ミーティング, 準備作業, ふりかえり等	10~12月	18	(113), Vo(95)	北センター
プログラム	12/24	1	52/Vo 7	北センター周辺
卓球フリータイム	通年(月2~3回)	18	(174)	北センター
自習室	通年(ほぼ毎日)	290	(7017)	北センター
ロビープログラム	通年(月に1~2回)	32	(1246)	北センター
北区つながるワークショップ	7~2月	7	(34)	北区役所
北コミまつり				
ミーティング	9月	1	10	北センター
掲示期間	12/1~28	1	(105)	北センター
なんでも文化祭	12月	2	(34)	北センター
テスト勉強応援メン	12月	1	33	北センター
卓球大会	12月	1	10	北センター
サンタクロース清掃	12月	1	25, Vo15	北センター
北中学生学習会	通年(毎週木曜日)	41	(104), Vo(117)	北センター
上京中学生学習会	通年(毎週月曜日)	38	(146), Vo(111)	上京区役所

## Ⅱ-3. 東山青少年活動センター

### 全体の動向

新型コロナウイルスによる影響を受け、全事業で、これまでの取り組みの見直しや修正、この状況での青少年のニーズにできるだけ応えられる環境や体制づくり、相談業務を行った。また、開館50周年を迎え、集まらない形での記念イベントや、創作表現活動に欠かせない対面でのプログラム等も配慮しながら開催した。

### 1. 創造表現活動事業(センター固有テーマ事業)

#### (1) 創造表現事業

##### ① 演劇ビギナーズユニット

○新しい生活スタイルとして、ソーシャルディスタンスや接触機会の削減が引き続き叫ばれるなかで開催しても、演劇創作の醍醐味を伝えることができない。また、今まで大切にしてきた、創作時間の積み重ねこそが自分や他者に向かい合うこと、人と人との関わり合いから、青少年が成長していく機会といった、演劇ビギナーズユニットの趣旨を体験する形での開催は難しいと判断し、中止とした。

##### ② ダンススタディーズ1

○高校生から社会人の幅広い年齢層の参加が得られた。期間中に緊急事態宣言が発令され、限られた時間の中でより良いものを創作するため、参加者同士のコミュニケーションの重要性への気付きや変化が多く見られた。グループ創作や公演を通して、対面でのコミュニケーションの大切さやあたたかさを改めて感じられる機会となった。

#### (2) 障がいのある若者の表現事業

##### ① 東山アートスペース

○感染対策を検討し、通年開催から2クール制に変更し、定員もこれまでの半数で募集。全コースで定員に達し、創造・創作活動の場を提供した。また、ボランティアは、高校生から社会人まで幅広い年齢層の青少年が活動し、障がいの有無に関わらず、同世代の若者が同じ空間を楽しむ活動としても提供できた。

##### ② からだではなそう～表現活動へのお誘い～

○知的な障がいのある青少年を対象に、参加者や保護者へのニーズ調査、身体的な接触を避け、楽しく感染防止対策ができるワークを取り入れる等、誰もが安全に、安心して、からだをつかった表現活動ができる機会を提供できた。

#### (3) 若者文化発信事業

##### ① ステージサポートプラン

○創造活動室を使った発表、公演活動へのサポートと、公演準備のための個別相談を実施した。新型コロナウイルスの感染拡大により、4月から8月までに予定されていた9公演はすべて中止となったが、9月からは活動を少しずつ再開。再開当初は有観客での公演にはリスクがあったため、映像撮影、映像の同時配信を行う団体の利用が増え、センターには映像配信が可能な環境が整っている、という情報が広がった。

##### ② ロームシアター京都との連携事業「未来のわたしー劇場の仕事ー」

○感染対策として、日数や時間も大幅に縮小した内容に変更し、ロームシアター京都で、音楽と劇を融合したオーケストラコンサートを通して、劇場スタッフから事業内容と業務について事前にレクチャーを受け、現場を見学した。また、ふりかえりにユースワーカーが入ることで、若者同士の交流促進や相談につながった。

##### ③ センター協同事業(若者文化発信事務局事業)「ユスカル！」

○主にWEBで開催した。パフォーマンスやアート作品の他、活動紹介やおうち時間で創作したものの画像を公募し、パフォーマンス作品は撮影後YouTubeチャンネルで配信、アート作品は専用ホームページで公開、画像はインスタグラムで発信した。また、より多くの青少年や市民が若者文化に出会う機会として、7つの青少年活動センターやロームシアター京都でのアート作品展示と表彰式を実施した。他にも、若者文化についてのニーズ調査や利用者が気軽に参加できるプログラムも行った。

### 2. 居場所づくり支援事業

#### (1) ロビープログラム

○ロビーでの多様な過ごし方ができる空間づくり、気軽に参加できるワークショップなどのプログラム、相談しやすい環境づくりに取り組んだ。特にアンケート企画では、高校生がボランティアとして参画し、ほぼ毎月テーマを変えたことで、定期的な利用者はテーマが変わるごとに参加し、ロビー時間の過ごし方の一つになった。また、ロビー利用の青少年に積極的な声かけを通し、コロナ禍における様々な声を拾うことができた。

### 3. 自主活動を支援する・担い手育成に関わる事業

#### (1) 自主活動支援事業

##### ① 自主活動支援事業

○ロビースペースを使った個展や、コロナ禍において大学内での活動ができないため、あるいは表現の新しい可能性を見出そうと、映像配信による公演の実施や、映像のための照明ワークショップ、演技ワークショップなどの企画、開催をサポートした。

## ②創作活動支援事業

○演奏会やライブ、ボイスドラマまたは個展や作品展などの本番を控えている青少年グループに対して、企画実現に向けた施設提供（音楽スタジオや創造工作室）などの支援を行い、個別相談にもつながった。

## (2) 担い手育成事業

### ①インターンシップ受け入れ

○コロナ禍での大学側のインターンシップ中止もあり、対象者がなかった。

### ②センター事業における各ボランティアの育成と支援

○アートスペースのボランティア交流、ナビゲーターも共に知識や技術が共有できる場として、陶芸の研修を実施した。事業運営のサポートだけでなく、陶芸作家やものづくりへの出会いの場、自身の興味・関心等を伸ばす機会としても高評であった。

## 4. 地域交流・連携・参画に関わる事業

---

### (1) 地域交流・連携・参画事業

#### ①学校連携事業

○西京高校定時制の文化祭イベントで、生徒と先生向けの演劇ワークショップを、センターの人材を活用して実施。学校側のニーズを踏まえて創作された、オリジナル脚本を使ったワークショップは、学校側から大満足という評価を得て、京都奏和高校とセンターとの協働、学校へのアーティスト派遣という新たな可能性を開いた。

#### ②地域交流事業

○東山区主催、東山区はぐくみネットワーク実行委員会主催の事業が中止となった。東山図書館や東山区保健センターとの連携した企画を居場所づくり事業「EP」にて実施した。

#### ③運営協力会の運営と連携

○10月に役員改選による新会長の選任及び12月に運営協力会を书面開催した。

## 5. 相談・支援の取組

---

### (1) 相談・情報提供事業

○相談を受ける基盤として、ロビーワークの実施や、各事業での参加者・ボランティアとの関わりから、信頼関係の構築を図った。また、支援室との情報共有や養護施設入所者・退所者からの相談対応などを行った。

### (2) 中学生学習支援事業

#### ①東山中学生学習会の運営（中学生学習支援受託事業）【再掲】

○経済的な理由などから、家庭で勉強する環境が整いにくい中学生に学習支援を通じた進学をサポートや安心して過ごすことのできる居場所機能を青少年ボランティアと共に提供した。

### (3) 就労支援事業（京都若者サポートステーションとの共催事業）

#### ①じぶんみがきダンス

○ダンス小作品を参加者みんなで創作していく中で、自己と向き合う力を高め、自己表現力やコミュニケーション力を培うなど、就労意識を高めるきっかけを提供した。過去の参加者が体験談を語る機会が設けられ、その話を聞いて参加するものも多く、本事業の価値や評価の好循環が生まれている。

## 6. 利用促進・発信・広報に関わる事業

---

### (1) 利用促進・発信・広報に関わる事業

#### ①情報発信および広報活動の充実

○ホームページの定期的な更新やSNSの活用により、新たな層にセンターを周知することができた。また、からだではなそうが今年度で15年目を迎え、活動報告映像を制作した。

#### ②利用促進事業

○自習室は継続的な利用があり、コロナ禍で自習スペースを求める大学生年代が多く見受けられた。フリータイムは設定できる日数が限られ、設定した時間帯とニーズが合致しなかったため、利用が落ち込んだ。

#### ③50周年記念事業

○情報誌「ヒガシガシ」を、約5年振りに、定型のスタイルで2回発行した。久しぶりの情報誌を懐かしむ人、初めて知る人も多く、センターを知るきっかけとしての情報ツールの重要性を再確認した。また、「思い出の写真」は、写真1枚をレンガに見立て、旧庁舎入口の「和」の文字が彫られた壁を再現するアートで写真公募を行い、青年の家時代の活動も含めて、今に伝える役割を果たすことができた。また、リニューアル時のダンスフェスを経験したダンサー達による、ダンス創作を通じた、世代をつなぐイベント“ふりむいて東山”は、先人が大切にしてきたものが若者に受け継がれる、世代間交流事業のモデルと言ってよい展開ができた。さらに表現やものづくりワークショップの実施から、施設の強みを生かした今後への事業展開を考える機会となった。また、京都新聞の取材・掲載があり、市民に向けて広く活動発信をすることができた。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	実施場所等
演劇ビギナーズユニット				中止
ダンススタディーズ1	11～3月	54	8(516)	自主練習・公演入場者含む
東山アートスペース	8～2月	15	46(190)	ボランティア数含む
からだではなそう	3/13	1	11(13)	ボランティア数含む
ステージサポートプラン	通年	55	2, 192	ボランティア数含む
ステージサポートプランYU'Z	通年	89	438	
未来のわたし	年1回(1月)	2	9(22)	
ユスカル!				
ユスカルチャレンジ!	10～11月	—	178	
パフォーマンス撮影	12月	6	15(33)	撮影スタッフ数含む
パフォーマンス動画視聴回数	3/1～31	—	(8, 285)	
インスタグラムでの活動発信	1～2月	—	17	
アート作品展・表彰式来場者数	1/25～31	7	(2, 722)	作品出展者数含む
居場所づくり事業「EP(エピ)」	通年	16	(652)	ボランティア数含む
ロビーギャラリー	通年	265	(7, 033)	同時期複数開催含む
学校連携事業	通年	24	(1, 565)	
自主活動支援事業	通年	6	(302)	来場者・見学者含む
創作活動支援事業	通年	24	(42)	
自習室	通年	196	(496)	
フリータイム	通年	17	(36)	
開館50周年記念事業	通年	208	(685)	公演来場者含む
焼成窯一般開放	通年(月1回)	2	8	
じぶんみがきダンス	年2回(10・11月, 1・2月)	10	26(59)	
中学生学習支援	通年(週1回)	50	(262), Vo(300)	

## Ⅲ-4. 山科青少年活動センター

### 全体の動向

地域とともに青少年の育ちや活動を支えるために、食・居場所をテーマとした事業を進めてきたが、コロナ感染症対策として規模を縮小、中止としたり、食以外のプログラムを考え進めたりすることとした。地域でのイベントがほぼ中止となったが、屋外での地域活動や個別で楽しめる余暇活動プログラムを実施した。「べる」事業では、「べるサポーター」の活動を進めるための活動を模索した。

### 1. 地域交流・連携・参画に関わる事業(センター固有テーマ事業)

#### (1) 地域通貨「べる」(自主事業)

- 10代の青少年がちょっとしたお手伝いをすることで獲得でき、山科センターのカフェ事業を含む地域の商店で使える地域通貨「べる」を、青少年ボランティア「べるサポーター」の協力のもと管理・運営した。
- 通貨の流通量や、山科センター内のみで消費されない仕組みづくりが課題。

#### (2) やませいフェスタ(「ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科」への参画)

- 「ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科」が中止となり、例年通りのやませいフェスタに替わり「拡大版Yicoやませいへおいデイ」を実施。利用グループの協力で、ダンス等の体験参加プログラムを実施した。

#### (3) 運営協力会との協働事業

- 総会については、コロナ禍を配慮して6月に書面で開催した。
- 青少年との懇談会も実施しなかったが、下半期には会員へ上半期事業実施報告を送付した。

#### (4) 地域協働・ネットワーク事業

- 青少年・子どもに向けて取組む団体等の活動への助言や情報提供、運営協力、活動機会の提供、広報協力等サポートを行った。(日本語教室「たちばな倶楽部」、山科区母子寡婦福祉会など)
- 地域で青少年を育む基盤をつくるネットワーク形成、関係機関(山階学区子育て支援ネットワーク・山科はぐくみネットワーク等)との連携・協働、地域(山階・西野・安朱学区)の夜間パトロールへの参加等を実施。
- 食をテーマとした地域での居場所づくりネットワーク「まちのちゃぶ台ネットワーク山科」の事務局を担った。青少年・子どもの支援に関わる人同士が新たに出会い繋がるための「場」づくり、「大人カフェ」を実施した。

### 2. 居場所づくり支援事業

#### (1) ロビーワーク

- ソファの買換えなどハード面の整備や、情報提供を目的とした掲示物の作成を行った。
- ワーカーが、青少年と日常の関わりから関係づくりを進め、情報提供や相談に繋がった。

#### (2) 余暇充実事業(青少年の自主企画含む)

- 毎週土曜日に、気軽に参加できるイベント(スポーツ、文化、芸術体験など)を実施。アンケートをもとに、青少年のニーズを反映させたプログラムも行った。また、単発のダンス教室も開催した。
- バレンタインの時期に複数のグループで料理室を利用できる「バレンタインウィーク」を実施した。
- スポーツルームを予約なしで利用できる「フリータイム」、中高生に限定した「中高生タイム」を設けた。

#### (3) やませいカフェ

- 感染状況に応じて、火曜日の放課後、青少年ボランティアの協力を得て軽食等の調理・販売を行った。
- ボランティア登録が増加したことから、ボランティアの希望を取り入れたメニューも提供することができた。

#### (4) 自習室&自習室カフェ

- 空き部屋を確保し、自習室として開放。利用の際に声かけを行った。前年度より約2倍の利用があった。
- ポイントカードを用いて自習生が一息つける「自習室カフェ」を実施。そこから事業参加や相談に繋がった。

### 3. 自主活動を支援する・担い手育成に関わる事業

#### (1) やましな未来プロジェクト

- 気軽に参加できる地域と関わる単発ボランティア活動の機会を提供した。
- 地域の自治連合会会長の協力のもと、地域の川清掃や山科地域を歩く歴史ウォーキングを実施した。

#### (2) やませい食堂

- 「まちのちゃぶ台ネットワーク山科」(子ども食堂ネットワーク)の協力を得て、10月11月に料理室等で青少年ボランティアの運営のもと「こども食堂」を実施した。
- 多年代が関わるがゆえに、リスクを考慮し中止にせざるを得ないときも多く、参加問い合わせも多いボランティアスタッフの活動機会やモチベーションをどうしていくかも課題となっている。

#### (3) ボランティア活動促進

- オンラインと対面の同時並行でボランティア説明会を実施(2月)。コロナ禍におけるボランティア活動のニーズを聞くことができた。また、やませいカフェや中学生学習会の登録に繋がった。

#### 4. 相談・支援の取組

##### (1) 情報提供・相談

○情報提供や相談などの個別対応・サポートを行った。状況に応じて、外部機関(区役所や児童相談所、児童館等)とも協力・連携・情報共有をすすめた。相談件数・回数ともに昨年度より増加。

##### (2) 山科中学生学習会(中学生学習支援受託事業)【再掲】

○対象となる中高生を受け入れ、高校進学の手助けや日々の学習支援を青少年ボランティアと実施した。  
○学習者の参加問合せが多く、一時期は待機もあったが、体制を整え、全員登録することができた。  
○新人ケースワーカー研修(10月)とボランティア向けの生活保護制度の研修(12月)を実施した。

##### (3) サポステ連携事業 働くまへのコミュニケーションワーク

○若者サポートステーション登録者等を対象に、ストレッチや発声練習、インプロビゼーション(即興演劇)の手法を用いて、自身をふりかえり気づきを得るワークショップを開催した。

#### 5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

##### (1) 利用促進・広報事業

○中学校長会山科支部に依頼をし、山科区内の新中学1年生にセンターの広報物(リーフレット・ニュースレター等)を全員配布した。また、やませいだよりを定期的に作成発行し各教室への定期的な掲示を依頼した。  
○Twitter, ブログやホームページ, Facebook, LINE公式アカウント等を定期的に更新。特にボランティア募集サイト「Activo」の活用はボランティアや参加者増に繋がった。

#### 6. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

##### (1) ユース・アシスト(京都府との連携事業)

○「少年の立ち直り支援事業」(ユース・アシスト)に協力しているが、今年度は依頼がなかった。

#### 7. 環境負荷の少ない施設・事業運営と啓発

##### (1) 環境負荷の少ない施設・事業運営と啓発

○ごみの分別や環境に関する話題について、掲示物やSNS等で利用者に発信した。  
○「やましな未来プロジェクト」事業で青少年と地域の清掃活動を行った。

#### <行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	実施場所等
□地域通貨「べる」(自主)				
べる活動	通年	47	(71)	山科センター・周辺
運営ボランティアによる活動	8/21, 10/9, 11/16, 12/19, 3/27	5	5(6)	山科センター
□地域協働・ネットワーク事業				
日本語教室「たちばな倶楽部」, 母子寡婦福祉会ほか関係団体	通年(木曜日) 8/9, 3/8, 3/12	14	(82)	山科センター
まちのちやぶ台ネットワーク山科	7/9	1	24	山科センター
大人カフェ	3/14	1	21	山科センター
□余暇充実事業				
Yico(特別企画含む)	通年 毎週土曜日	43	(242)	山科センター
Yicoダンス教室	11/17, 12/15, 1/19, 2/16, 3/23	5	(35)	山科センター
フリータイム	通年	217	(1,039)	山科センター
中高生タイム	日祝日・長期休暇期間	68	(249)	山科センター
バレンタインウィーク	2/9~2/14	6	(4組9名)	山科センター
□やませいかフェ ボランティア自主企画	通年 毎週火曜日	32	(529) Vo20(120)	山科センター
□自習室・自習室カフェ	通年(自習室) 通年(自習室カフェ)	373 111	(2, 888) (97)	山科センター
□やましな未来プロジェクト 地域清掃 歴史ウォーク①②	10~2月 10/25, 12/20 11/23, 2/23	4	(41)	センター近辺 安祥寺川近辺等
□やませい食堂 ボランティアミーティング	10/17, 11/21 7/18, 9/26, 2/13, 3/20	2 4	利用(76) Vo17(24)	山科センター
□ボランティア説明会	2/16, 2/18, 2/26	3	(5)	山科センター
□情報提供・相談	通年		202(534)	
□中学生学習支援事業	通年 毎週金曜日	42	利用(231)Vo(187)	山科センター
□サポステ連携事業	11/24, 11/27, 12/1・3	4	7(24)	中央・山科センター
□やませいだより発行	4, 6, 8, 10, 12, 1, 2月発行	5		地域各中学校他
□環境負荷の少ない運営・啓発	通年 月1回	12		山科センター近辺

## Ⅱ-5. 下京青少年活動センター

### 全体の動向

年間を通してコロナウイルス感染拡大の影響を受け、利用者数は47,779名(前年度比-38,789名)となった。旧センター周辺商店街や崇仁地域、下京区内の地域団体・行政機関等のイベントは中止が相次ぎ、青少年と地域との関わりをもつ機会をつくれなかった。一方で単発の清掃活動ボランティアには多くの若者が集まり、同世代との交流や活動の機会へのニーズの高さが伺えた。

### 1. スポーツ・レクリエーション事業

#### (1) まちログイニング

- スマホやSNSを活用した街歩きイベント(フォトログイニング)を実施し、レクリエーション活動での楽しさや青少年の交流を図る機会づくりを行った。
- 企画・運営を青少年ボランティアが担うことで、若者目線で面白さを深め、街の魅力を伝えることができた。

#### (2) しもせいチャレンジ☆キッズ

- 小学生向けのスポーツ・レクリエーションプログラムを青少年ボランティアが企画した。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、実施を見合わせ、ボランティアの研修や交流のみの実施となった。

### 2. 居場所づくり支援事業

#### (1) ロビー交流プログラム

- 「何でも質問BOX」や情報提供コーナーの充実など、幅広い青少年が、身心を休めたり、他者との関わりから気づきを得られたり、居心地よく過ごせるためのロビー空間づくりを行った。
- 掲示板を用い間接的に交流したり、多様な価値観に触れたりできる「アンケート企画」、利用者が集いお茶を飲みながら交流したり、軽スポーツやレクリエーションでリフレッシュしたりする「しもせいカフェ」を実施した。

#### (2) 自習室

- 自習できる部屋を毎日開放した。近隣高校生の利用が多く、試験期間には満席になることもあった。
- 進路の悩みや報告、家族間での悩みを職員に打ち明けるなど相談につながったり、ボランティア活動など他の事業につながったりと、青少年との日常的な関係を築くことができた。

### 3. 地域交流・連携・参画に関わる事業

#### (1) しもせいネットワーク(共催・協力事業)

- バレーボールリーグ(第44期Sリーグ)の実行委員会運営事務局を担った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、リーグ戦は中止となった。
- レクリエーション・インストラクター養成講習会:京都府レクリエーション協会が主催するレクリエーションの資格取得に向けた機会を提供した。
- 下京区等、行政との関係づくりに取り組んだ。会議体への出席や、事業での協力などを行った。
- 運営協力会は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、書面での開催となった。

#### (2) しもせいフェスタ

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、規模を縮小したり、来場者を限定したりしたうえで、センター利用者に活動発表の場を提供した。日ごろの練習の成果を発揮できるステージ発表や関係機関・育成団体による活動紹介を実施した。

#### (3) 1Day ボランティア

- 初めてでも気軽に参加できる単発のボランティア活動の機会を提供した。
- 例年の地域イベントが中止となり、8月より単発参加できる清掃活動ボランティアを実施。各回10名程度が集まった。同世代との交流や他の事業参加・相談につながるなどセンターの入口事業となった。

### 4. 担い手育成に関わる事業

#### (1) プラン・ドゥ(自主活動促進の事業)

- 若者の「やってみたい」を叶える企画を後押しし、状況に応じたアドバイスや施設提供、広報等の協力を行った。
- ボランティアグループ「チーム街スタ」と、センター利用者による絵画展の2件に関して、ミーティング場所・会場の提供や広報のサポートを行った。

#### (2) しもせいボランティアネットワーク

- ボランティア活動の説明会と交流イベントを実施した。
- いずれも企画・運営を有志のボランティアスタッフが担うことで、互いの活動に関する理解を深めたり、相談できる関係をつくったりする機会となった。

#### (3) インターンシップの受け入れ

- 各大学やコンソーシアムからインターンシップや実習生の受け入れを行った。



## 5. 利用促進と市民認知の拡大につなげる情報発信と広報

### (1) 広報事業

- HP, Facebook等, 各媒体を使い分けながら, センターでの取り組み状況や, 日常の様子を外部に発信した。
- 事業を横断したボランティア募集, 高校生向けチラシなどを作成し, 近隣の学校でセンタークリアファイルを作成し配布することで, センターの認知度向上に向けて働きかけた。
- センターの施設利用と事業の紹介, 利用者紹介などをまとめた「KYOTO SHIMOSEI GIDE BOOK」を発行した。

### (2) トレーニングジムガイダンス

- ボランティアである「ジムアドバイザー」の協力体制のもと, トレーニングルームを初めて利用する人を対象に, 第1・3木曜日午後7時半から, ガイダンスを実施した。HPや利用者の口コミ等による参加が多かった。

### (3) しもせい筋トレ部

- 高校生年代を対象に, 平日の利用できる時間帯を限定し(朝, 昼, 夜の3つから選択), トレーニングルームの利用促進を行った。
- 近隣高校へのチラシ配布を行ったが, 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け, 登録数も減少した。

## 6. 相談・支援の取組み(就労支援を含む)

### (1) 中学生学習支援事業「下京学習会」【再掲】

- 高校受験に向け, 学習の習慣づけや学力の向上等を目標に, ボランティアスタッフと週1回の学習会を運営した。
- 学校や家庭での悩みについて打ち明ける学習者がいたほか, ボランティアの居場所ともなっていた。
- 半年に1回ボランティアの振り返りの場を設けた。ボランティアの学びや成長に繋がるきっかけとなった。

### (2) 中学生学習支援事業「洛西スコール」【再掲】

- 洛西支所, 京都経済短期大学, 青少年の健全育成を考えるフォーラムと連携し, 週1回の学習会を運営した。毎回5～8名程度の参加があり, 安定した運営を行うことができた。年2回, 関係機関との運営会議を行った。
- 学校や家庭での悩みについて打ち明ける学習者がいたほか, ボランティアの居場所ともなっていた。

### (3) アジプロ下京～あたまと身体でじっかんするプログラム～(サポステ連携事業)

- 「事務受付」を通じた就労体験として, 事前研修・体験実習(活動のふりかえり含む)・事後研修を組み合わせさせて実施。ふりかえりでは, 参加者から自身が取り組みたい課題への想いが語られた。

### (4) 相談事業

- 青少年に情報提供を行い, 相談を受け, 個別的な支援を行った。
- ロビープログラムの「何でも質問」に寄せられた相談に回答した。

### <行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者 (のべ数)	備考/実施場所等
<b>1. スポーツ・レクリエーション事業</b>				
(1) まちロゲイニング	通年	20	(151)	ボランティア含む
(2) しもせいチャレンジ☆キッズ	通年	51	(217)	ボランティア含む
<b>2. 居場所づくり支援事業</b>				
(1) ロビー交流プログラム	通年	54	(1,033)	アンケート企画 797名/なんでも質問 97件/しもせいカフェ 139名
(2) 自習室	通年	317	(2,200)	
<b>3. 地域交流・連携・参画に関わる事業</b>				
(1) しもせいネットワーク(共催・協力事業)	通年		(764)	SI-グ(595), 他(152), 協力事業(17)
(2) しもせいフェスタ	12/4～6	30	(375)	来場者, ミーティング含む
(3) ワンデイ・ボランティア	通年	14	(96)	清掃活動ボランティア, ミーティング含む
<b>4. 担い手育成に関わる事業</b>				
(1) プラン・ドゥ (自主活動促進の事業)	通年 12/4～18	70 11	(458) (66)	街スタ 定例ミーティング含む 絵画展 ミーティング含む
(2) しもせいボランティアネットワーク		3	(25)	説明会, 交流会, ミーティング含む
(3) インターンシップの受け入れ	1～3月	-	1	立命館大学大学院インターンシップ
<b>5. 利用促進と市民認知の拡大につなげる情報発信と広報</b>				
(1) 広報事業	通年	-	-	主にWEBを利用
(2) トレーニングジムガイダンス	通年	27	(117)	アドバイザー含む
(3) しもせい筋トレ部	通年	48	(62)	
<b>6. 相談・支援の取組み(就労支援を含む)</b>				
(1) 中学生学習支援事業「下京学習会」	通年	40	(112), Vo(192)	
(2) 中学生学習支援事業「洛西スコール」	通年	42	(158), Vo(165)	
(3) アジプロ下京～(サポステ連携事業)	3月	18	(42)	講師含む
(4) 相談事業	通年	-	(185)	情報提供含む

## Ⅱ-6. 南青少年活動センター

### 全体の動向

中高生を中心とした10代の若者たちが、仲間と共に過ごせる空間を提供し、そこで経験を広げる手助けを行うため、大学生を中心とするナナメの関係となるボランティアが積極的に場づくりに取り組んだ。また、オンラインを活用して既存の事業への参加など、これまでにはない取り組みはできたが、十分にオンラインの特性を活かした展開にまでは至らなかった。

### 1. 10代の若者の居場所づくり事業

#### (1) 放課後カフェ事業

##### ① 放課後カフェ「みなば」

○例年は軽食の調理販売を行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、個包装されている駄菓子の販売に切り替えた。10月からは、駄菓子に加えて、週1回おにぎりとうま汁の提供を行った。

○駄菓子販売のみ、青少年ボランティアが運営に携わった。

##### ② オンラインふらり亭

○オンラインを活用した居場所づくりを試行したが、継続的な実施までに至らなかった。

#### (2) たまり場project

○10代の若者がひとりでも、仲間とたまれる「場」づくりを行った。利用の多い土日や夏休み期間には、ボランティアがロビーワークのほか花火大会などのイベントも実施した。

#### (3) フリータイム／自習室

○予約不要でセンターの施設を利用できるフリータイム・自習室では、ユースワーカーが利用者に積極的に声かけを行い、放課後カフェへの参加につなげた。

#### (4) みなみオープンデー

○新中学生がセンターをお試しで利用できるプログラムを実施し、地域の小学生が参加した。

#### (5) おひるまユース

○昼間時間帯のセンター活用を関係団体等に広報を行ったところ、保護者からの問い合わせが数件あったが、実際の利用は1件のみにとどまった。

### 2. 居場所づくり支援事業

30歳までの若者を広く対象とし、気軽に社会参加を経験できる場の提供と活動をサポートした。

#### (1) 清掃活動ボランティア「ひろいな」

○月に1回、センター周辺を中心とした南区内の清掃を実施し、中学生高校生、大学生と幅広い参加があった。例年参加している地域清掃は、コロナ禍で実施されなかった。

#### (2) ボランティア体験事業「ふらっとb」

○ボランティアをしてみたいという層が単発で気軽に参加できる事業として、ニーズは高かったが、地域の夏祭りやイベントが軒並み中止となり、秋に1回のみ開催となった。

#### (3) スモールステップ「ひだまり部」

○不登校、ひきこもり経験を持つ女性を対象に少人数でのグループ活動を実施した。2名の登録があったが、参加者の体調等で中止になることもあった。

### 3. 地域交流・連携・参画に関わる事業

#### (1) 地域協力・連携事業「南区ワカモノネットワーク」

○会議参加：南区内のキーパーソンや地域団体と、意見・情報を交換する機会に積極的に参加をした。

○「地域プロフィールを知る会」：南区内で若者支援に携わる支援者の、顔の見える形でのネットワークをつくるため、講師を招いての勉強会を1回実施した。

○喫茶カウンターの改修：南区の地元企業、団体の協力を得て、寄付金を活用し改修を行った。南区で行われるさまざまな行事に参加し、若者に関わる人たち、地域づくりに取り組む人たちとのネットワークづくりを行った。

○特定の職員が固定して関わるのではなく、センターとしてつながりを作っていくことが今後の課題である。

#### 4. 担い手を育成する

##### (1) ボランティア育成

○放課後カフェ、たまり場、学習支援など事業の運営を担うボランティアの募集、研修などを実施した。コロナ禍で他者と出会う機会を求める大学生の参加が予想以上であった。

##### (2) インターンシップ実習生受け入れ事業

○通年で複数名の実習受け入れの計画を立てたが、コロナの影響により、学部生2名の受け入れにとどまった。

#### 5. 利用促進と市民的認知の拡大につなげる情報発信と広報を進める

##### (1) 広報事業

○南区内中高の生徒へ配布する「みなみだより」を3回発行した。近隣家庭向けに回覧板用のチラシを作成するとともに、新聞折り込みなど地域住民向けの広報にも取り組んだ。

##### (2) Web 媒体を活用した広報

○Facebook, Twitterを中心に広報を行った。「質問箱」「LINE」を試験的に導入したが、継続使用には至らず。

#### 6. 相談・支援の取組 ※就労支援, 学習支援事業含む

##### (1) センター相談事業

○センター休館中は、ボランティアやすでに面識のある利用者と電話による交流を行った。

○センター利用者や各事業参加者への対面による相談や情報提供を行った。不登校の子を持つ親からの相談が複数あり、必要に応じて外部機関を紹介した。

○職員の力量形成のため研修への参加を促すほか、所内での事例検討会を行った。

##### (2) #南 SH

○ピアサポート団体「にじーず」のLGBTQの若者たちの居場所づくりに協力した。

##### (3) 中学生学習支援事業

○生活保護世帯、困窮世帯等、学習環境が整いにくい中学生の学習支援を行ったが、参加者が増加したことから、週2回に回数を増やした。

##### (4) 就労体験事業「アジプロ」: サポートステーションとの協力事業

○コロナの影響でカフェ体験事業が中止となり、代替として駄菓子販売を2クール実施した。南区役所での実施では、行政、地域団体にセンターの取組を知ってもらう機会になった。

##### (5) 社会的養護施設退所者等交流事業「いこいな」

○施設退所者の若者を対象にした月に一度のご飯会だったが、感染予防の観点から調理は中止し、ビンゴ等、ゲームなどを楽しむ時間を持った。また、オンラインでの参加もあった。

#### <行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	実施場所等
□放課後カフェ				
おにぎりカフェ	毎火曜日	20	(141)	10月以降実施
だがしや みなば	随時	164	(1, 054)	
オンラインふらり亭	10/23~1/21	4	(5)	
□たまり場project				
ロビー掲示	通年・随時		(654)	
おてつ隊	通年・随時		(18)	
ロビーイベント	日・祝, 学休期間		(263)	
みなみオープンデー	3/23~27	2	(12)	
おひるまユース	9/21	1	1	
□フリータイム/自習室				
フリータイム	通年・ほぼ毎日	256	(1, 984)	
自習室	通年・ほぼ毎日	295	(878)	
□居場所事業				
清掃活動ボランティア「ひろいな」	毎月第4土曜日	10	22(47)	
ボランティア体験事業「ふらっとb」	11/14	1	6	西九条公園
スモールステップ「ひだまり部」	毎月第1・第3土曜日	9	2(13)	
□ボランティア育成				
ボランティア説明会	希望に応じて随時	17	26	内オンライン3名
南学習会ボランティア	通年(毎週木曜日)		12(182)	
まなびやボランティア	通年(毎週火曜日)		4(58)	11/10開始
たまり場ボランティア	通年・随時	68	9(90)	
放課後カフェボランティア	通年・随時		4(28)	駄菓子の販売のみ
インターンシップ受入れ	11~1月		2	京都女子大学
□相談事業				
南学習会	通年・毎週木曜日	44	18(197)	
まなびや	通年・毎週火曜日	19	4(50)	11/10開始
いこいな	毎月第3土曜日	10	7(32)	オンライン2名
就労体験事業「アジプロ」	10/5~26, 2/1~26	14	6(42)	南区役所, 中央センター

## Ⅱ-7. 伏見青少年活動センター

### 全体の動向

コロナ禍によるマスク着用で顔と名前が一致しにくいこと、ロビー利用の目的が“遊び”から“自習”へと変容したことなど、ワーカーと青少年との関係づくりがなかなか進まなかった。にほんご教室はボランティアの協力を得て安定実施できたが、職員の異動による体制変更に伴い、居場所事業に関しては十分なアプローチができなかった。一方、他センターでも海外ルーツの若者の利用があること、少なからず困難さを持っていることが分かったので、今後は海外ルーツの若者が直面する課題に対し、青少年活動センターが取れるアプローチについて検討したい。

### 1. 多文化共生事業(センター固有テーマ事業)

#### (1)JTL(Japanese Talking Lesson)

○海外にルーツを持つ方と日本人の若者が気軽に日本語で話し合える場を設け、お互いの文化を知り合う機会となった。秋以降、伏見区内の日本語学校に在籍する中国籍の若者のロコミ参加が多く見られた。

#### (2)にほんご教室

○月3回土曜日午前中に実施。海外にルーツを持つ方に対して、青少年ボランティアが日本語を教え、互いに多文化理解の場となった。休館明け以降、参加者数が減少している一方で、ボランティア希望は増え続け、バランスを保つことが難しかった。

#### (3)海外にルーツを持つ若者のための居場所事業「SWITCH」

○月1回、第1土曜日に中学生～22歳までの海外にルーツを持つ若者のための居場所事業を展開した。中学生学習会やJTLに参加の若者が数名参加したが、それ以上に広がりを生むことができなかった。  
○隔月で渡日・帰国青少年のための京都連絡会(通称:ときめき)と、情報交換を行った。

### 2. 居場所づくり支援事業

#### (1)ロビーアクション

○「利用者」と職員「利用者」との相互理解が深まるよう、掲示板を使った意見募集や、季節にあわせたミニイベント(ハロウィン、節分など)を実施した。  
○来館するたびにスタンプを押し、集めた個数により景品を渡す「ポイントカード」を継続実施した。  
○地域の関係団体・個人の協力を得て、戦争に関する掲示物を展示した「ピースメッセージ展」、コロナ禍でも青少年に生の音楽に触れてもらう機会としてオンラインを活用した「風蓮堂 RADIO@ふしみん」、定期的に提供していただいているバナナを活用した「カフェ」を実施した。  
○コロナ禍の学生のサポートとして、オンライン環境を提供する「ふしみんオンライン」を立ち上げた。

#### (2)向島ユースセンターの運営

○協会事務局とともにアウトリーチ事業の運営を行った。

### 3. 担い手育成に関わる事業

#### (1)ボランティア育成・交流事業

○多文化共生事業に関わるボランティア(にほんご教室とJTL)の交流会を開催した。  
○すべてのボランティアを対象に、活動についてふりかえる場を個別に設けた。

#### (2)実習生・インターンシップの受け入れ

○大学、各種機関からの受け入れは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。  
○学生の現場実習先として、同志社女子大学の学生を受け入れた。(にほんご教室・JTL)

### 4. 地域交流・連携・参画に関わる事業

#### (1)ふしみんまつり

○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。

#### (2)地域連携事業

○はぐくみネットワーク等の行政・地域団体などの会議に参加し、伏見区の若者を巡る諸課題について、提案や情報交換を行うとともに連携できるネットワークづくりを構築した。  
○伏見センターで働く職員が伏見区の事を理解する足掛かりとして、まちづくりアドバイザーや地元エフエム局の方の協力を得ながら、伏見区を知るための勉強会を実施した。  
○国際交流会館のオープンデイに出展した。

## 5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

### (1) 情報発信事業

- 新中学1年生向けにオリジナルクリアファイルとパンフレットを配布した。
- Twitterでの情報発信に注力した。あわせて、積極的に若者グループをフォローした。

### (2) フリータイム・自習室・ロビーパソコンの設置

- 軽スポーツができる場として連日15～18時(土は14～17時)にスポーツルームAを、ダンスができる場として火・木・土・日・祝日15～18時に中会議室ABを、それぞれフリータイムとして開放した。
- 自習室での密を避けるために、ロビーの一角も自習室にしつらえ、開放した。
- ロビーに30分100円で使えるパソコンを設置した。

## 6. 相談・支援の取組

### (1) 相談・情報提供事業

- 相談・情報提供は95件160回(内、青少年70件125回)であり、前年度比較68件89回の減少となった。

### (2) サポートステーション職業体験事業

- 京都若者サポートステーションと連携し、「アジプロ事務所体験」を2クール実施した。

### (3) 中学生学習支援事業 STEP/おかわりSTEP

- 毎週木曜日(長期休み期間は毎週2回)学習支援活動を実施(愛称:STEP), 1月以降は受験生対策として毎週月曜日にも実施した(愛称:おかわりSTEP)。中学校3年生の登録者8名全員が高校へ進学した。
- 伏見区担当課、及びケースワーカーを対象に活動内容についての研修会と意見交換を実施した。

### (4) 中学生学習支援事業 向島ぶらす

- コロナ禍のため、向島ニュータウン内での活動拠点が使えなくなり、伏見センターに会場を移して学習会を毎週土曜日に実施した(愛称:向島ぶらす)。中学校3年生の登録者3名全員が高校へ進学した。

## <行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	実施場所等	
□多文化共生事業					
JTL(Japanese Talking Lesson)	通年	39	(262)	参加者登録23(108) ボランティア登録17(154)	
にはんご教室	通年	30	(427)	学習者登録17(131) ボランティア29(296)	
海外にルーツを持つ若者のための居場所事業「SWITCH」	通年	7	2(5) 関係団体(18)	関係団体とのMTGを含む	
□居場所づくり支援事業					
ロビーアクション	ロビーワーク	通年	56	(1, 146)	
	イベント・カフェ等		24	(693)	
□担い手育成に関わる事業					
ボランティア育成・交流事業	7/11	1	10	JTL, にはんご教室のボランティアが参加した交流会	
実習生・インターンシップの受け入れ	通年	—	10	同志社女子大学より受け入れ	
ノーバディーズパーフェクト	—	—	—	今年度中止	
自主活動支援	—	—	—	同上	
□コミュニティ・スペース事業					
ふしみんまつり2020	—	—	—	今年度中止	
地域連携事業	11/3	1	320	国際交流協会オープンデー	
□利用促進・発信・広報に関わる事業					
フリータイム・自習室・ロビーPCの設置	フリータイム	通年	690	(3, 417)	ダンス:(508) 軽スポーツ:(2, 909)
	自習室	通年	262	(3, 294)	
	ロビーPC	通年	—	(100)	
□相談・支援の取組					
相談・情報提供事業	通年		95(160)		
サポートステーション 職業体験事業	①8月～9月 ②12月	9	5(35)	全2クール実施	
中学生学習支援事業	STEP	通年	40 11	(251), Vo(226) (30), Vo(26)	1月～3月は週2回実施
	向島ぶらす	通年	36	(42), Vo(124)	

### Ⅲ 京都若者サポートステーション受託事業（厚生労働省及び京都市委託）

無業状態の15歳から49歳までの学籍のない若者（※一部例外あり）に対し、職業的自立に向けた支援を行う事業として厚生労働省及び京都市より委託を受け、運営した。今年度は新型コロナウイルスの影響により京都サポステのある施設の休館や労働市場の低迷、職場体験先企業の受入れ見送りなど様々な要因があり、思うように支援ができない状態であった。しかし、その中でもオンライン面談や電話面談などコロナ禍でも支援を継続できるような取り組みを始め、それらが功を奏し、就職者数については昨年度を上回った。

一方で、特に上半期については、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休館や、公共交通機関を利用することへの不安感から利用者の外出機会が激減、そこから内にこもる時間が長くなり精神的な落ち込みや外出意欲が減退し、サポステに支援を求めにくくなっていたことが、後の面談から確認できた。

#### 1. 個別相談支援事業

##### (1) インテーク面談

○ユースワーカーがインテーク面談を実施。特に、緊張感が高い利用者に対して関係づくりをしながら思いを整理し、事業とのつながりの面談や専門相談を補完する形で、ユースワーカーによる個別相談など、間をつなぐための支援に取り組んだ。丁寧につなぐことを意識しており、対面でのみで実施した。

##### (2) 専門相談・個別支援

○専門相談員である臨床心理士によるこころの相談（水・木・金曜）、キャリアコンサルタントによるキャリアの相談（月・火・水・土曜）。オンライン、電話、対面と3種類の面談を相談者に選択してもらうことで心身共に安心・安全な状態での面談ができるよう取り組んだ。

##### (3) 定着・ステップアップ支援

○就職者数増の影響もあり、安定就労を目的とした就労決定後の様子伺いや継続的なかかわり、途切れない支援を心掛けたため、相談件数は増加した。その結果、定着率（就労6ヶ月後の就労状態）は80%を超えた。

#### 2. 就活基礎力

##### (1) イマココ

○マインドフルネスの手法を用いて、「今ここ」の自分自身の状態を客観視しつつ、心身のリラックスを体感し、緊張緩和するプログラムを実施した。

##### (2) キャリコロ

○サイコロの出た目に合わせた話をし、徐々に少人数から全体に繋げ、会話力アップを目指すプログラムとして実施。「アドバンス」では、題目設定をせず、全体で話す体験機会を設定した。また、職業体験参加者の体験談を聞く「座談会」や参加者の意見を取り入れた女性限定の「女子会」など、さまざまな形式で実施した。

##### (3) 身体表現を用いたコミュニケーションワーク（インプロ）

○「演劇から学ぶ、働くためのコミュニケーションワーク」（山科）では、インプロビゼーション（即興演劇）の手法を用いて、表現することを体験的に学ぶワークを実施。また、即興でのダンスの手法を用いて、表現することを体験的に学ぶ、「じぶんみがきダンス」（東山）も実施。いずれも、講師と相談し感染拡大予防の観点を取り入れたプログラムに変更して実施した。

#### 3. 就活実践力

##### (1) チートレ

○月1回の発送作業において、役割分担し作業する体験を通して、協働で働くことを体験的に理解し、実践できるための事業、チートレ（チームワークトレーニング）を実施した。

##### (2) 自分を知って仕事に就こう

○過去の経験や現在の自己イメージを明確にし、将来ビジョンを作成し、実行可能なキャリアプランを作成する講座を実施した。

##### (3) 面接対策講座

○模擬面接の様子を映像でふりかえる作業を通して、面接の所作を学ぶ講座。面接で想定される質問に対する回答を考えたり、選考に関する情報提供や履歴書の書き方について、特に志望動機・自己PRを作成する際のポイントを学んだりする2つの講座を実施した。

## 4. 就業体験事業

### (1) アジプロ「喫茶・事務体験」

○青少年活動センター内等での就労体験プログラム(南＝販売, 下京＝事務, 伏見＝事務)を実施。丁寧に体験をふりかえるプロセスを踏むようにした。

### (2) 職場体験

○協力企業において職場体験を実施。いずれのケースも受け入れ体制や丁寧なふりかえりを行い、次のステップへと進んでいった。一方で、「いっぽねっと」を通じての職場体験先の紹介については、新型コロナウイルス感染拡大が懸念されるため、受け入れを見送る企業が多く、マッチングに至らなかった。

## 5. 保護者支援事業

### (1) 親こころ塾

○無業状態の我が子との関わり方について悩む保護者が、捉え方・かかわり方を学ぶプログラムを実施した。

## 6. サポステ周知事業

### (1) 地域出前相談会

○ハローワーク京都七条での出張相談を毎月実施。京都産業大学との連携による出前相談を卒業式に併せて3日間(9月卒業/3月卒業)実施。卒業後進路未決定者が参加した。また、通信制高校にて講話も実施した。

### (2) 広報事業

○従来のパンフレット・チラシ送付, ホームページ/サポステネットでの広報を実施。各種ネットワークでのサポステ紹介依頼が多く, ネットワークを通しての広報にも精力的に取り組んだ。また, 新規登録者獲得に向けて京都市内のハローワーク窓口担当者を対象にサポステの説明を行った。

## 7. 機関連携事業

### (1) 内部連携

○サポステの危機的な状況を発信し対策として提案を受け, 各事業所からのサポステ紹介に取り組んだ。今後も協会としてセンター/子ども・若者支援室/サポステと連動した広報の取り組みが求められる。

### (2) 学校連携(大学・高校)

○前述しているが, 京都産業大学, 通信制高校での出前相談会を実施。卒業予定の生徒や中退者への支援のため, 各学校に対してサポステの紹介を行った。1月より卒業見込み進路未決定者の登録・支援が可能となり, 2月・3月の出前相談会では在学中から登録に至るケースがあった。

### (3) 他機関連携(就労・福祉・医療機関/企業/ネットワーク)

○就労移行支援事業所や各福祉機関と連携を前提とした相互の取り組み理解のための協議に取り組んだ。また, 中小企業家同友会・各支援機関との連携による, ネットワークに参加。労働市場の状況確認やサポステ登録者の状況共有を通して関係性を深めていった。

## 8. 常設サテライト

### (1) 常設サテライト運営

○個別相談支援, サポステ周知, 機関連携, 出張相談等の事業を実施。また, ネットワークに積極的に参加し, 情報共有の機会を有効に活用する他, 具体的な連携を模索した。

### (2) 常設サテライトにおけるプログラム実施

○前述の就活基礎力, 就活実践力を元にしたプログラムの実施を行った。

### <行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者のべ数	備考/実施場所等
身体表現を用いたコミュニケーションワーク	11月～12月 10～11月/1～2月	14	85名(のべ)	山科センター 東山センター
キャリアコロ(アドバンス/女子会/就労体験談/サポカフェ含む)	4～3月	30	147名(のべ)	
イマココ	4～3月	12	77名(のべ)	
自分を知って仕事に就こう	8～10月/12月/3月	10	101名(のべ)	
面接対策講座「かたちを学ぶ」, 「内容を深める」	4～3月	12	41名(のべ)	
チートレ	4～3月	8	26名(のべ)	
アジプロ(販売体験)	10月/2月	14	42名(のべ)	南センター
アジプロ(事務体験)	8～9月/12月 3月	17	45名(のべ)	伏見センター 下京センター
親こころサロン	11～12月/2～3月	6	38名(のべ)	